

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティー

重大極まりないUFO問題

UFO目撃日記

ホワイトサンズUFO搭乗事件

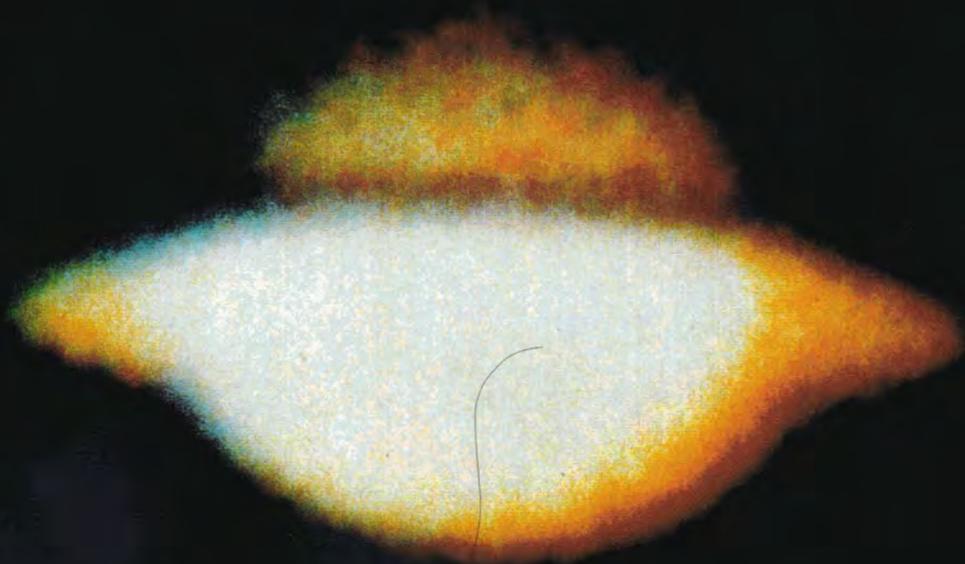
宗教とUFO問題のはざま

現代の科学レベルを思う

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ

WINTER
1997

139



CONTENTS (Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness)

〈巻頭言〉 真実と虚偽	1
重大極まりないUFO問題	久保田八郎 2
ホワイトサンズUFO搭乗事件	ダニエル・フライ 12
〈写真〉福山のUFO	桑田 雅則 16
UFO目撃日記	加藤 純一 18
宗教とUFO問題のはざま	平田 泰介 20
偉大なるアダムスキー哲学	高梨 十光 16
GAP短信	24
科学—SCIENCE—	25
現代の科学レベルを思う	浜田 敏博 28
UFO目撃のメッカ、ニューメキシコ州	久保田八郎 32
日本GAP、テレビ朝日番組に出演	34
総会会場に不思議な物体が出現	佐々木八郎 35
今年度総会、大盛況	36
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ②	ジョージ・アダムスキー 38
〈写真〉カリフォルニア州のアダムスキー型UFO	41
〈予告〉久保田先生との質疑応答会	45
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究者と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先輩者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気にはちかっています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記ハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

〈表紙写真〉

神奈川県川崎市在住の降旗和彦氏は、かねてからUFO問題に深い関心を持ち、テレパシーでUFOに呼びかけを行っていたが、1986年12月17日、八王子市の石川サービスエリアで上空に出現したUFOを連続3枚撮影した。これはその1枚。使い捨てカメラの「写ルシです」を使用。この詳細は「UFO・遭遇と真実」日本編（中央アート出版社）に掲載されている。 ©日本GAP

デューを案内して土星の大使船に乗り込むという事実があった。

いったい歴史とは何なのか。わずかに四〇年前後の少数の人物による重要な言動が完全に無視されているばかりか抹殺されかかっている現実を考慮すると、千数百年間の史実として教科書に記載されている「歴史」なるものは誤認だらけで殆ど一顧の価値もないということになるだろう。

地球という微小な天体の表面に蠢くカビのような人間が地動説を信じ始めてからわずか数百年。無限ともい

(巻頭巻)
真実と虚偽



FBI (米連邦捜査局) がアダムスキーをマークしていたという事実はきわめて重要な意義を帯びている。なぜならそれほどに疑惑と不信の渦中にあつたところに足りないかさま師”をFBIという国家機関が重視するはずはないからだ。大衆の揶揄と嘲笑の渦巻く大海の水面下で米政府はひそかにアダムスキーを調査して真相の把握に努力した。その結果ケネディー大統領を動かすほどの重大問題が浮上してアダムスキーはホワイトハウスへの自由な出入りが許可されたばかりか、ケネ

き大宇宙に地球と同様な人間の住む惑星は「たぶんあるだろう」と当代一流の天文学者が発言している現状にあつて、太陽系内のすぐ隣の惑星群に偉大な文明が存在していると説いたアダムスキーの言説が理解の域をはるかに超えていたのも無理からぬことだ。

だがこの世界には若干ながらも先鋭な分子が探求を続けており、強固な確信をもって太陽系の実態に関する啓蒙活動を展開している。これはいつか報われるだろう。すでにアメリカの火星探査で重大な発見をしている痕跡があるからだ。しかし賢明なNASA当局はこれを隠蔽することによって社会の混乱を防止していると思われる。火星人といえどタコのような化物を連想しがちな大衆の社会に恐怖と混乱を巻き起こしたくないからだろう。

火星では高度な発達をとげた人類が地下に大都市を建設しているという情報もある。この真偽はともかくとして昔から火星観測史上きわめて興味深い現象が報告されている。有名な火星観測家であった佐伯恒夫氏は火星を観測中に、その近辺に不思議な巨大な光体が飛ぶのを見たと言及し発表したことがある。だが学界からは無視された。天文学の正規な教育を受けず、独学で通じた氏はプラネタリウムの解説者として過ごした。

一方、アメリカでは冥王星を発見した大天文学者クライド・トンボー博士

が一九四九年八月にニューメキシコ州ラスクルーセスの自宅裏庭で、夜間、不思議な光体を見たと言及し発表した。四角な光る窓のようなものが六個ないし八個横一列に並んで夜空を横切るのを目撃したというのだ。

なんとこの彼の相違かと慨嘆するには及ばない。個人的にはUFO問題に強い関心を寄せている科学者が結構いるのだ。しかし実際にはUFOを目撃しても失業するのを恐れて公言しないのだろうと思われる。無理もない。この世界では収入源を失うことは生活の終点であつて、タコのような火星人の襲来”よりも怖いのだ。容易に発言するわけがない。

しかし時代は進歩するのである。五二年前の終戦日までのわが国における思想や生活文化と現在のそれとを比較すれば別世界の感がある。若い男女が楽しく寄り添って歩くのを見た憲兵が「この非国民め！」と殴り倒した狂気と恐怖の超軍国主義時代は遠い彼方に過ぎ去つて今は夢のような楽土となった。自由と放縦が混在して度が過ぎた感があるけれども、これは宇宙的な進展への過渡期であろう。

ともあれ宇宙探索の成果によつては急速に人間の意識の変革が生じる可能性もあるが、アメリカあたりが隠蔽策の横綱として重要な発見事を極力秘匿するのはそれなりに評価できるのである。米政府は愚劣ではないのだ。

FBIがアダムスキーの調査文書の一部を公開したのは本人が他界して久しいせいもあるだろうが、何よりも彼の言説に重要な意義が含まれていることを認めただからであろう。さもなくば山師扱いされた人物の調査結果などはゴミとして破棄されたにちがいない。

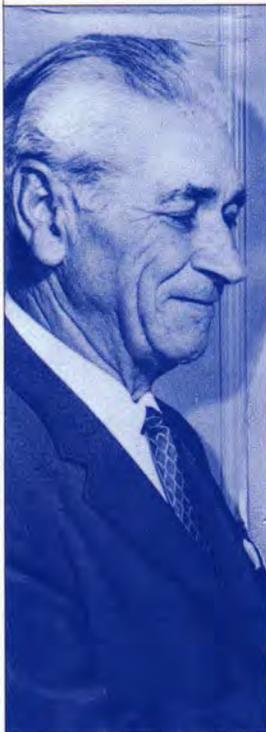
我々は真実と虚偽を見抜くのにときとして困難を覚えるけれども、やはりそれを確実に行なう必要がある。虚偽を真実として信じたが最後、ひどい結果をもたらすからだ。そこでアダムスキーが言うように物事に対するテレパシクな洞察力を高めることが要求されるのである。

というのは、いわゆるUFO問題に関するコンタクト事件のなかには、いかかわしいフィクションもあるからだ。それでなくてさえも日常生活で他人の言動の真偽、特に事業における取引先の信用問題では相手の心中を見抜くことが最重要である。テレパシーや遠隔透視能力の開発は容易ではないけれども、習練を積むことによつて開発できるとアダムスキーは述べている。その方法については新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」か第三巻の「生命の科学」に詳述してある。これを読んで練習を続けた結果、透視能力を開発した人やひどい心臓病を治した婦人もGAP会員のなかにはいる。アダムスキー問題は超先駆的な意義を帯びているのだ。

重大極まりないUFO問題

★久保田八郎（日本GAP会長）

去る九月一四日、日本GAP今年度総会は大盛況裡に終了したが、当日は久保田八郎が一時半にわたって「GAP・UFO・宇宙哲学」と題する講演を行ない、多大の感銘を与えた。この記事は講演に加筆したもので、題名も変更してある。



▲ジョージ・アダムスキー

UFOは別な惑星から来る宇宙船

戦後まもなく、いわゆるUFO問題が世界的に流布しまして問題化しました。当初は英語の Flying Saucer の訳として「空飛ぶ円盤」と言っていたのですが、そのうちにUFOと呼ばれるようになりました。これは Unidentified Flying Object という英語の訳で、未確認飛行物体と言われています。つまり地球社会に属する飛行機、鳥、気球その他の確認された物体ではない、正体の知れない飛行物体という意味です。正体が知れないといっても、結局は飛行機や鳥などの誤認ではないかという人が多く、あるいは物理的なプラズマ説を唱える人があったり、その他、

気象関係の何かの現象だろうという人もありました。

一方では、UFOというのは別な惑星から来る宇宙船だという人もありましたが、四次元世界から来る物で、地球の三次元世界に入ってから物質化する物だという人もありました。まさに百家争鳴の感があったのですが、科学的にはいまだに結論が出ない状態にあります。したがって非科学的な現象なので、まじめに取り上げるべきではないと主張する人もあります。ですから、UFOなどというものを本気で扱っている人間は精神に異常をきたしているとみなされる傾向もあります。そうだとすれば、今日ここに集まっておられます皆様方や私などはみな一種の精神異常者であることになります（笑）。ところが、私達は精神異常者ではあ

りません。それどころか皆さん方は高貴な精神を持つとうとして日夜研鑽を積んでおられる立派な方々ばかりです。しかもUFOなるものはれっきとした物質の宇宙船であって、それは我々の太陽系の地球以外の惑星から来るものだという説を皆さん方は支持しておられますし、私もそれを確信してこのGAP活動なるものを多年続けてまいりました。その確信はけっして狂信ではなく、世界中のUFO情報を集めて綿密に分析した上でのことです。特にアメリカのジョージ・アダムスキーという人がUFOの乗員とコンタクトしたり、さらに小型のスカウトシップ（偵察用小型宇宙船）や母船に乗せられて船内で素晴らしい物を見せられたり、超高度な話を聞かされたりして、その体験を本にして出しましたが、これは

一九五〇年代から六〇年代にかけてのことです。アダムスキー以外にも別な惑星から来たスカウトシップや大母船に乗せられたり、別な惑星につれて行かれたりした人はまだいるのですが、それらについては、それぞれ体験記を出したり話を伝えたりしているのですけれど、なかなか一般には信じてもらえないという状態のようです。日本人のなかにもUFOに乗った人が少なからずいるのですが、その人達は体験を隠しています。もし公言すれば、信じない人達から攻撃されて危険な目に遭うからです。

アダムスキーを支持した人達

むかしアメリカの偉大な大統領といわれたジョン・F・ケネディーは、ア



1997年度 日本GAP総会

IGAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY 1997
THE SCIENCE & COSMIC PHILOSOPHY OF GEORGE ADAMSKI

講演・日本GAP会長 久保田 八郎
「GAP活動・UFO・宇宙哲学」



▲上は講演中の久保田八郎。

ダムスキーを強力に支持した人として、UFOの実体をよく知っていました。そしてUFOの推進法である重力場推進方式を採用して地球の科学に一大変革をもたらそうとしたのですが、惜しくも暗殺されました。

さらにドイツのロケット工学の父と謳われたヘルマン・オーベルト博士もダムスキーの友人であった人で、この地球世界に別な惑星から人間が援助に来ていることを知っていたというのです。その他にも多くの有名人や社会的な地位の高い人々がダムスキーの異星人来訪説を支持していた事実があるのですけれども、ダムスキー亡き後はすべて抹殺されてしまい、今はダムスキーの影も薄くなったような状態です。

日本GAPはなぜ発展したのか

しかし、ダムスキーを支持する活動を強力に推進している国もあります。それは実にこの日本です。その支持団体は日本GAPです。それで、これから日本GAPについて少しお話し致します。

私が日本GAPなるものを始めたのは一九六一年の九月からです。したがって今年で三六年になります。よくも長続きしたものだと思えますが、これはもちろん会員の皆様方の絶大なご支援のたまものです。しかし私には宇宙的な事柄に関して普通の人を持ち合わせない、何か得体の知れない知識欲、探求力がありまして、その結果を一般世間に知らせるべきだという使命感のようなものが全身に満ちていたことは確かです。

いったいに私は子供の頃から不思議な現象や超現実的な物事に深い関心がありました。そのためにずいぶん変わり者扱いされたこともありましたが、自分の内部から沸き起こる探求心を抑制することはできず、ダムスキー問題にしましても全く疑惑を起こすことなしに、まっしぐらに啓蒙活動が続けてきたのです。そして私自身にもずいぶん不思議な事がいろいろとありまして、私が何か危険な状態におちいりそうになりますと、不思議にそれをのがれたことが無数にありました。これは明らかに「何者か」による援助であると思っています。その「何者か」とは何か？ もうお解りでしょう（と言って上空を指さす）。国内でも助けられていますし、海外でも援助されています。

私は思うのです。人間は学校で教わることだけを絶対的な真理として固く

撮影／西川 太

信じて、それ以外の事柄、つまり学校で教えない物事は非常識として信ずるべきではないという態度で生きることが、自分の保身や生活の維持には良いでしょうが、これでは進歩しません。この世の中にはどこに何が存在するか分かったものではないからです。伝えられている歴史でさえも絶対的に正しいかと言いますと、そうでもないようです。ずいぶん歪められて教えられている部分があるようです。

この世には不思議な現象が沢山ある

そこでUFO問題に戻りますと、私を知っている限りでも、国内だけでもずいぶん不可思議な事件が発生しています。それに関する詳細は拙著「UFO・遭遇と真実」日本編（中央アートの出版社）に出ておりますから、まだお読みになっておられない方は一度お読みになれば「この世の中には、こんなすごい事があるのか！」と驚嘆されま

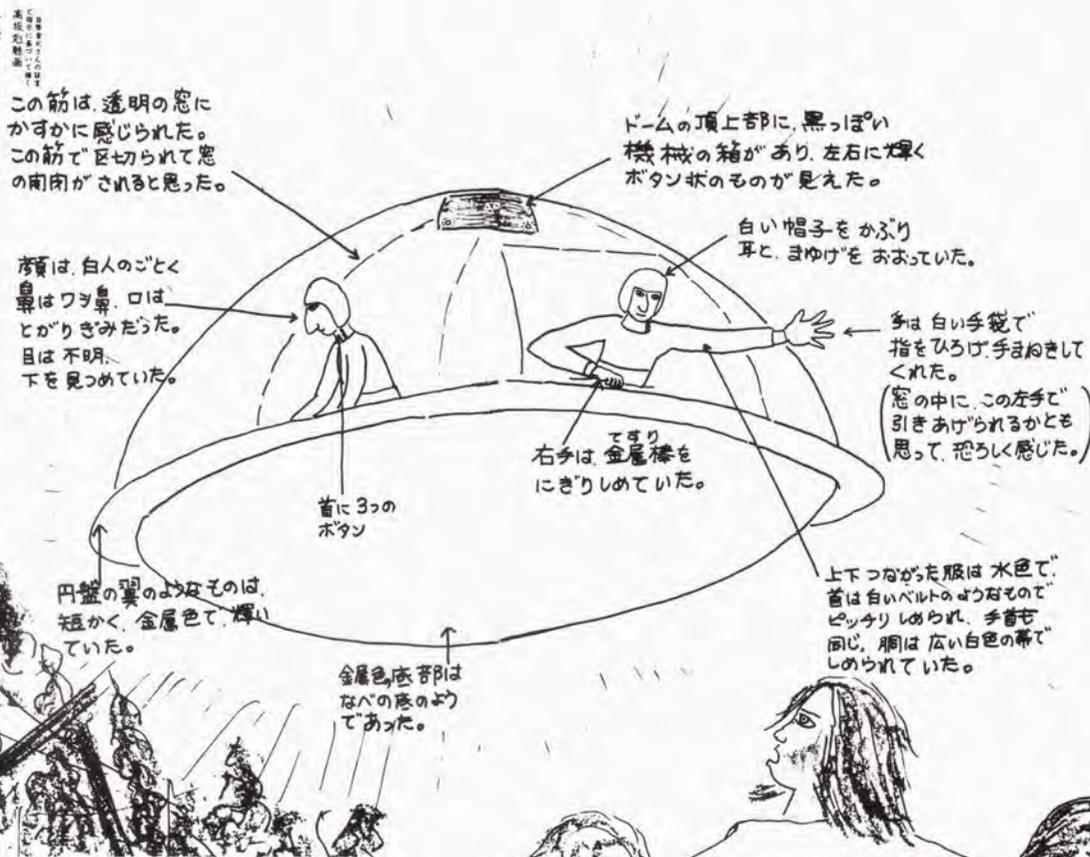
すでしょう。たとえば、大正一二年（一九二三年）九月に発生した関東大震災で、横浜も大打撃を受けましたが、そのときに一機の円盤が超低空に降下して、逃げ惑う人達を安全な場所に誘導して、それについて行った七人の人を助けたという事実があります。その円盤の上部には二人の異星人が姿を現わして手を振って誘導したと、目撃者の一人で

ある大塚敬さんというご婦人が証言しておられ、インタビュئرした高坂和導氏が例の金星人オースソンの絵を見せたら、この姿と全くおなじだったと言った驚いておられたということですよ。この調査が行なわれたのは二〇年前のことです。そのご婦人が八一歳のときですから、もうご健在ではないでしょう。とにかく詳細は先ほどの本をお読みになって下さい。（下図は当時の光景）

信・不信の境目を決めるもの

以上の他にUFO事件は国内だけでなく多数ありますが、ここで問題になるのは、絶対に間違いないと関係者が認めるようなUFO事件やその他の不思議な事件を、どうしても認めようとならない人達がいます。それは何かの幻覚だとかプラズマ現象だとか言って、非科学的だという立場で否定するわけです。科学はもちろん重要ですし、科学的な考え方を高めなくてははいけません。現在、現在の地球の科学が宇宙の森羅万象をすべて解明できるほどの水準に達しているとは到底思えません。もつと謙虚に考えるべきではないでしょうか。

ところが、最高の教育を受けた人が自分の専門以外の分野については意外に無知であり、深遠なものに対する探求心を持たなかったりします。これは



関東大震災時における宇宙人出現之図

大正一二年九月一日

普通に見られることですが、一人間が非常に唯物論的で、謎の現象をすべて一笑に付して相手にもしないという性質をもって生まれた理由は、どこにあるのでしょうか。

この理由は遺伝によるようです。そしてそのような遺伝を受ける環境に生まれたこと自体が、本人の過去世からの宿命（カルマ）を現わしていると言えるでしょう。このように言いますと、またも非科学的だと攻撃されるかもしれませんが、人間の宿命や持つて生まれた性質の差や転生などは現段階で容易に科学的に解明できるものではありません。いつかは解明できるかもしれませんが――。

一方、さほど教育を受けていない人でも、自分の人格の向上をめざして精神面での修養を行ったり、はるかな大宇宙の彼方に思いを馳せて、天国のような惑星の存在を想像しながら地球の現状を憂えたりする人もありますが、これも過去世からの宿命によると言えるでしょう。

宇宙の根源的なるものの認識が最重要

そこで、人間の転生すなわち生まれ変わりという現象を知る必要があります。これも現段階で科学的に解明は不可能ですが、私達はアダムスキーの残した大いなる遺産である新アダムスキー全集に接することが出来ます。この

膨大な知識を持つならば現在の地球社会の水準を超えた凄く知識が与えられます。もちろん、あの中に書いてあることはすべて真実なのだという確信がないといけません。そして人によつては、あの一冊の全集の読んだだけで、「これは絶対に事実なのだ！」と即座に信ずる人があるでしょうし、また逆に「なんだ、こんなインチキ本が」と放り出す人もいるでしょう。こうした相違はすべて過去世から多数の転生を経て培われてきたカルマによるものです。

これで人間には差があることがわかりましょう。たとえば、同じ学校で机を並べて全く同じ教育を受けた人同士でありながら、卒業してからある人は右翼になり、別な人は左翼になって活動します。これは教育の結果ではありません。過去世からのカルマです。

ここで重要なのは、人間には精神的な成長度における差があるのですが、絶対に差というものがない「核心」があらゆる人間に内在しています。それは万人を生かしている「宇宙の魂」というべきもので、これをアダムスキーは、「宇宙の意識」(Cosmic Consciousness)と名づけています。もつと言いかえれば、「宇宙の創造主」または「神」ともいえるでしょう。これが人体を生かしているわけです。

ですから、その意味において私達はいかなる性質や知能を持つ人をも差別してはいけないということになります。

万人は「大宇宙の子」であるからです。前述のように人間各自の精神的知能的発達度は千差万別ですから、とかく私達は程度の低い人を蔑視し差別する傾向がありますが、これでは万人を大宇宙の子と認めたことになりません。もつと人間の内部に宿る根本的な「宇宙力」ともいうべきものを認めて、それに敬意を表するべきです。

そんな宇宙力といつても、つかみどころがないではないか。何を指して宇宙力というのか、と反論する人があるかもしれません。しかし宇宙力は厳然と存在しています。それは「生命力」というかたちで人間を生かしているのです。この生命力なるものは全く公平に与えられており、それはあたかも太陽が万人に差別なしに光を与えるのと同じです。

だから私達は万人を大宇宙の創造主の子として尊敬する理由があるのです。どんな悪党でも、やはり創造主の子ですから尊敬すべきでしょうね。そんなことをしては世の中の秩序が保てないではないかと思われまじょうが、秩序の維持は法的な規制を加えればよいのであって、これは蔑視ではありませぬ。悪い事をすれば悪い報いがあるという因果応報の法則を知らしめるための手段です。

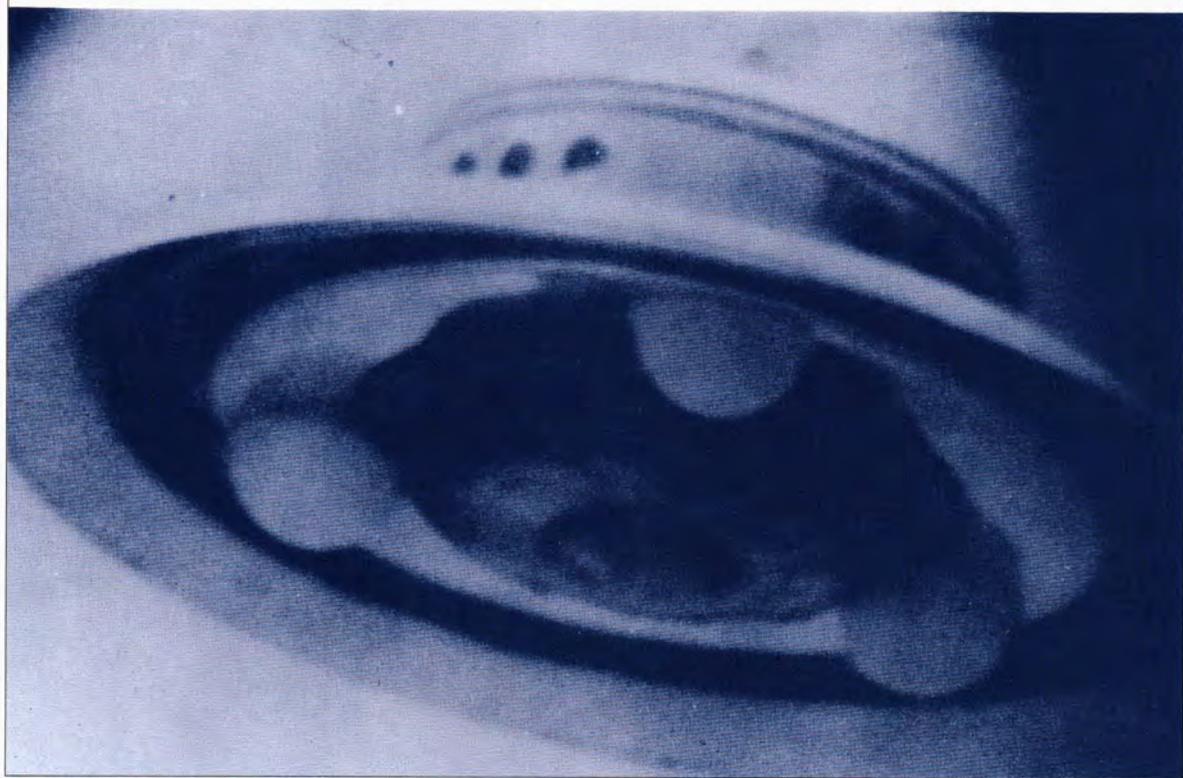
UFOの推進原理

以上のような事をスペースビープル（異星人）がアダムスキーを通じて地球人に教えようとしたのです。しかしアダムスキーの体験記は広く一般に流布しませんでした。時期尚早だったといえるかもしれませんが、そのタネはまかれたのですから、いつかは世界的な古典として熟読される時代が来るかもしれません。必ず来るでしょう。

いずれ地球人は私達の太陽系の別な惑星群に偉大な文明が存在していたことを知って愕然とし、地球社会に大変革を起こすときが来るはずで、私はそのことが分かっているものだから、こうしてGAP活動を続けているのです。あと二五〇六年ないし三〇年もすれば地球人は太陽系の他の惑星群の人達と公然と交流するようになるでしょう。それも分かっています。

そんなことは久保田一人の思い込みではないのかと言う人があるかもしれませんが、ところが実はアダムスキーの本をかかなりの有名人や科学者が読んで共鳴している事実があるのです。実名を列挙すれば皆さん方は驚くでしょう。

それはなぜかといいますと、現在の地球の航空機は燃料を必要とする噴射推進方式を応用していますが、これには限度があります。そこでUFOが応用しているような重力場推進方式に切り替えないことには宇宙開発に進歩がないことを進歩的な科学者が気づいているからです。



写真上 1952年5月10日、アダムスキーがパロマー山から6インチ反射望遠鏡で撮影した金星の大母船。長さ約600 m、直径約45 m。 ©日本GAP

写真下 1952年12月13日、アダムスキーがパロマー山から6インチ反射望遠鏡で撮影した金星のスカウトシップ（小型宇宙船。俗に円盤と呼ばれる）。直径約10 m。これらの写真に関する詳細は「第2惑星からの地球訪問者」（中央アート出版社）に出ている。

これは磁気の斥力と引力を応用したもので原理は簡単なものです。UFOの機体はこの原理で作動するのですが、光速に近いスピードで飛びながら、しかも複雑な動きをする場合、内部にいる人間はGフォースの影響で人体が耐えられなくなりますが、そこでUFOの船体には人工的な重力場が作り出されていて、そのために内部にいる人間は重力場に引き寄せられるからGフォースの影響はないのです。これは猛スピードで自転が公転している地球の表面にいる人間が人体に何も影響を受けないのと同じで、つまり大自然を模範にしてUFOの船体が作られているのです。

この作動原理については、一九五二年一月二〇日にカリフォルニア州のデザートセンターに円盤で着陸して出て来た金星人がアダムスキーと会見したときに砂地に残した靴底の奇妙な図形と、さらに二月一三日にパロマー山のアダムスキーの住宅上空に飛来した同じ金星人が円盤の窓から落としたネガホルダー（アダムスキーが砂漠で相手に貸しておいたもの）に写し込まれていた奇妙な図形などがUFOの推進原理をあらわしていると伝えられていたので、これらを研究した日本GAP本部役員・遠藤昭則が研究して、ある程度の成果をあげています。遠藤役員によれば次のとおりです。

「UFO（宇宙船）の推進原理は磁石の吸引と反発作用でたとえられます。地球の表面にある物体は地球内部からの引力の影響を受けています。そこで地球をマイナス（負）とすると、船体も同じようにマイナスにすればよいのですが、しかし磁石では同じ極同士が反発されますけれども、引力の場合は多少異なります。

その場合、たしかに磁石のときのようには反発されませんが、引力というものが磁気的な波動であることに気がつけば、船体の放つ磁気的なその周波数によって反発の程度が異なってくるのがわかります。つまり、振動数を高めてゆけば、地球の引力という海の中にある船体は自然に宇宙空間に押し上げられることとなります。ただし船体のバランスをとるために、上の方にプラスの部分小さく作る必要があります。

地球では宇宙船のようにマイナスだけが大きくてプラスが小さいというよ

うなアンバランスな物はまだ作られていません。これは磁気単極に似ています（厳密には似ているだけです）。

船内の乗員たちも、やはり宇宙船によって作り出された重力場の中にいます。そうしますと、磁気が人体のような有機物や、磁石に反応しない金属その他の物にどうして作用するのかという疑問が起こるでしょうが、それは科学の実験に使う棒磁石などがそれらの物に反応しないということであって、そうではない磁気としての交流電磁波、脈動する磁気波、または光でさえも、それらの中にある原子に影響を与えることがわかっています。

たとえば原子に対してある周波数の磁気波を与えると、それを吸収した電子が力を得て、それまでの運動よりも



写真上 1952年12月13日、パロマー山のアダムスキーの住宅上空へ超低空で飛来した金星の円盤が投下したネガフィルムに写し込まれていた不思議な文字と図形。このネガは同年11月20日、カリフォルニア州南部のデザートセンター砂漠地帯に着陸した円盤から出てきた金星人が、アダムスキーが持っていた撮影済みネガをホルダーごと借り受けて行ったもの。この写真はむかしアダムスキーから筆者に贈られた。

写真下 この奇妙な図形は金星の宇宙船の推進原理を説明したものと聞いた南アフリカの研究家バシル・バンデンバーグは苦心して解読し、写真のような反重力モーターを開発した。しかし彼はアダムスキーの忠告を聞かずに早まって記者団に公開したために何者かに拉致されて行方不明となった。日本GAPの本部役員・遠藤昭則もこの図形と文字を研究して、反重力モーターを開発した。その論文は本誌にたびたび掲載されている。

大きな運動をすることになり、あらためて電磁波を出すという「磁気共鳴」現象（これは身体の中の断層写真を撮るときに応用されています）が起こりますし、植物が太陽の光を受けて光合成を行なう現象もそうです。以上によって、どのような物質も磁氣的な波動の影響を受けることなのです。

ただ「共鳴」という現象は他方が一方から力を与えられて同じような波動を出す現象ですが、UFO（宇宙船）の場合は自分から同じ振動数を自発的に出すという点が異なっています。それによってUFO（宇宙船）は「共振」の場を持つことになりました」

以上が遠藤昭則の見解ですが、とにかくUFOの推進原理をスペースピープルに教えられたアダムスキーは、さらに米海軍の研究所に原理を伝えた結果、米海軍は模型ながらも本物のUFOの開発に成功したと述べています。しかしこれは秘密裡に葬られています。しかしこれは秘密裡に葬られたかはその後どうなったかはわかりません。ケネディー大統領はアダムスキーの親友でして、UFOの秘密を知っていたと思われまます。そのためアダムスキーはホワイトハウスへ自由に入出入り出来る許可証を持っていたということです。しかしケネディーは暗殺されました。この理由としては宇宙問題がからんでいたと思われまます。利権を固守するための恐ろしい犯罪だったのかも知れません。

人間の自由意思を尊重する 異星人

ここで疑問がわいてきます。あれほどに宇宙的な進歩した思想を持つていたケネディーを、なぜスペースピープルは助けようとしなかったか？

これについては次のとおりです。六年一月二日にケネディーが遊説のためにテキサス州ダラスへ行く前に、有名な超能力者のジン・ディクソンが未来予知をやった結果、ダラスへ行けば危険だから中止するようにとケネディーに忠告したそうですが、ケネディーは聞き入れずに強行したというのです。その結果はディクソンの予言とおりになりました。

こうした場合、スペースピープルは人間の自由意思を尊重しますから、無理やりに中止させることはしないと云うことです。そういえばアダムスキーも六五年の四月、東部へ講演旅行に出かける前に体調が良くなかったのと気が候が寒冷であったので、アリス・ウェルズ女史が行くのを止めたそうですが、アダムスキーは休むわけにはゆかないと言つて出発したのです。そして旅行中に心臓麻痺で急死しました。これもスペースピープルが旅行を引き止めなかった例です。

ですから先の大戦ではヨーロッパやアジアでずいぶん悲惨な物事があつたようですが、スペースピープルがあつた

ような大戦争自体を中止させようとしなかつた理由もこれで納得がゆきます。つまり宇宙の法則からいって、国々の指導者の強烈な意思の力を阻害することとはスペースピープルといえども出来ないということになるのでしょうか。結局は地球人自身が戦争の結果から何かを学びとることによって進化せよと言つていたのでしょう。

ただし、あまりにも多数の強大な核兵器を使用する全面戦争になれば、スペースピープルも黙視してはいないでしょう。それは他の惑星にも被害が及ぶからです。その意味でスペースピープルは現在、地球のある地域を嚴重に警戒し、核兵器による第三次大戦の発生を防止しているようです。ですから核戦争としての第三次大戦はまずあり得ないとみてよいでしょう。今後もし戦争があるとしても局地的な小競り合い程度でしょう。これは来世紀になつてもしばらくは続くようです。

“世紀末”に惑わされないことが大切

それよりも警戒すべきは自然の猛威です。こればかりはスペースピープルも防ぎようがありません。といっても地球の自転軸の傾きによる地球全体の破滅的な大変動も当分は考えられませんが、もちろん局地的な火山の爆発、岩石の崩落、河川の大氾濫等はつづくでしょうが、これは昔からあつたことで、

世紀末だから増加するといつて騒ぐのは見当違いな話ですから恐怖心を起こすのは禁物です。

世紀末を致命的な運命に結びつけて地球に破滅的な現象が発生するという説が流布していますが、これは地球人が考え出したカレンダーに束縛されているだけのことで、自然の産物である惑星としての地球自体はそんなことに関係なく、一人で勝手に太陽の周囲を回っているだけのことで、ただし注意すべきは、原因が何であれ、地球人の恐怖心が結集すれば、その巨大な想念波動が大地に影響を与えて、良からぬ自然現象を発生させるといふ法則があるようですから、根本的にはあらゆる人間が温かな想念を持ちながら全体的に調和してやつてゆくのが最良の方法であるということになります。そして一方では科学力によって大自然の動きを注視して防御策を講じることも肝要でしょう。

凄じ超能力を持つスペースピープル

動物が大地震の直前に大騒ぎをしたり不穏な行動を示すということはよくあることで、一昨年の神戸大地震でもかなりそのような話が出ています。つまり動物は地震の予知能力を持つと言つて差し支えないでしょう。これは大地と一体化して生きている動物が大地の波動を感じるからであると思われま



●フロリダ州のUFO

1994年9月24日、米フロリダ州ガルフブリーズで午後6時15分、雲間に出現した黒い物体を一人の男性が4枚撮影。物体はさらに降下したので続けて8枚撮影した。撮影者の氏名は伏せてある。提供者はマイク・ホーキンス氏（撮影者ではない）。

©日本GAP

す。そこで人間も波動を感じする能力を持つべきだとアダムスキーが力説し、そしてテレパシーや遠隔透視の能力を開発することの重要性を説いているわけです。これは大地震の予知ばかりではなく、他人と調和して生きる上で最も重要な能力のようです。

というのは、私達が他人と不調和になるのは、相手の性質や想念の内容を知らないために誤解が生じるからです。他人が自分を憎んでもいないのに、あの人は自分を毛嫌いしていると誤解すれば、そこには必ず不調和が生じます。そこで万人と調和するには万人の想念内容を知ることが最重要になります。スペースビープルはそのためのテレパシー能力や遠隔透視、オーラ透視その他のいわゆる超能力をそなえているものですから、彼らの世界には不調和がなく、天国のような社会を築いており、また地球へやってきても安全に身を守っているのです。

実際、彼らのテレパシクな感知力は凄いの、私もあるとき若い女性異星人の能力に驚嘆したことがあります。私の無言のテレパシーの呼びかけに完璧に気づいて応答していました。

この女性には何度か会いましたが、いつともなく姿を消してしまいました。顔は日本人タイプでしたが背の高い、すらりとした美人でした。年齢は見たところ二二三歳ですが、実際にはアダムスキーが言うように数百歳の

かもしれません。

コンタクトで名高い秋山眞人氏は、もとカシオペア方向の惑星から地球へ転生してこられたそうで、今生にまたそこへ行かれたことがあるそうですが、その惑星の住民は平均年齢が七〇八〇歳で、長生きする人は一三〇〇年ぐらゐも生きるといふことでした。

今から一三〇〇年前といえ、日本では奈良時代の始め頃で、持統天皇が孫の文武天皇に位をゆづった頃です。そのころに生まれた人がまだ生きていっている話を地球人は絶対に信じないでしょうが、私は信じたいですね。その理由としては、この無限の宇宙にはどこに何が存在するか分かったものではないからです。そのような気宇広大な思索に満ちた想念を保ちたいと思っています。

スペースビープルのように向上する方法

私達地球人もスペースビープルのようになれるでしょうか。つまり数百歳も健康に生きたり、超人的な能力を持つたりして生きるといふ意味です。

原則としては可能なはずですが、これは正直なところ至難の業です。だいたい地球社会の波動が低すぎるのです。その低劣な波動の影響を受けている肉体を持ったまま少なくとも一五〇年も生きることがまず不可能でしょう。しかし普通の地球人よりもかなり長生き

して健康に暮らすことは可能なはずで、その方法はアダムスキーの言うように、自分の内部に宿る「宇宙の意識」(つまり宇宙の根源的な創造者)をはっきりと認識して、自分のマインド(心)がそれと一体化するように自己訓練を続けるのです。そうすればまず肉体が変化しはじめて、見せかけの健康ではなく本当の意味で健康になるでしょう。そして超人的な能力が開発されるでしょう。その詳細な方法については新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」に出ていますし、第三巻「生命の科学」にも地球でまだ知られていない細胞の働きとそれの生かし方などが詳述してあります。

第一巻の「第二惑星からの地球訪問者」の第二部の中で、アダムスキーが大母船の中で異星人の長老から聞かされた言葉の中に非常に重要な話が出てきます。それは次のとおりです。

「地球や地球人に悪いものは何もありません。ただし理解力の欠乏のために『唯一の最高者』の宇宙的な生命界において彼らは幼児です。すでにお聞きになったように、私たちの世界では創造主の法則を『実行』しているのですが、一方、地球ではただその法則について語っているだけです」(一九六頁)

この唯一の最高者というのは宇宙の創造主であり、アダムスキーはこれを「宇宙の意識」と呼んでいます。しかし地球人で宇宙の創造主を心底から感

知している人はほとんどいないようです。あらゆる人は四つの感覚器官で形成されるマインド(心)に振り回されて、ただ欲望のために生きていっているでしょう。

またアダムスキーは異星人から次のようにも聞いています。

「私たちはあなたがたの言う失望なるものを知りません。それは消極的な言葉です。ずっと昔、私たちは信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ちとることが出来ます。一中略—しかしご存じのように私たちの世界ではもはや病気とか貧困などは存在しませんし、犯罪もありません。私たちは人間を創造主の最高表現として、また万物の中の完全なものとして認識しています」(二七九頁)

どのように考えても、私たちは宇宙の創造主というものを明確に認識して、万人が創造主の現われであるとみなし、万人を文句なしに尊敬するというレベルまでゆかないことには救われようはないようです。これは困難なことですが、しかし自分が宇宙的に発達しようと思えば、良い意味でバカになつたような気でこれを実践する以外に方法はないでしょう。これを実践すれば個人的に素晴らしい運命が開けるでしょうし、多くの人が実践すれば社会がすぐく良くなって天国のような世の中になるでしょう。

難病を治すには

この「第二惑星からの地球訪問者」を読むだけでも、人間が良い運命を開いたり難病を治したりする方法の真髄は語り尽くされていると思うのですが、特に人体は本人の想念の持ち方によってどのようなものになるという箇所があります。それはロサンジェルズでアダムスキーが二人の異星人から話を聞いたときの次のような一節です。

「ごらんのように私たちは外見や気分などで老化しません。これは充分に学んだ教訓の賜物を日々新たに持ち込むからであり、無益とわかつたものはすべて捨てるからです。常に新鮮さを肉体に表現するので、このように若くなるのです」(二八三頁)

これについて、彫刻家が作品を作る前には出来上がったイメージを描いているが、人間の肉体もこれと同じであって、本人のイメージどおりに肉体も変化してくるという意味のことを述べています。

つまり何かの病気を治そうと思えば、すでに健康になったイメージを本人が描きつづければよいというわけです。

これについて最近はブラスイメージによって運命を好転させたり健康体にする方法を説いた本が氾濫するようになりましたから、むかしアダムスキーがスペースビープルから聞いた話は真

理そのものであったということがわかります。

特に有益な書物として「生命の暗号」(サンマーク出版)という本が出回っています。これは筑波大学教授の村上和雄氏が書かれた本です。これによりまずと、人体を形成する各細胞の中にあるDNAと呼ばれる膨大な遺伝子群の中の良い遺伝子を「オン」にして悪い遺伝子を「オフ」にすれば、人生を充実させて幸せに生きることができるといいます。もちろん健康にもなります。そのためには心を変化させて、今まで眠っていた良い遺伝子を活性化させるとよいとあります。具体的には「自分は良くなる。健康になる」という想念を絶えず全身の細胞に浴びせかけるとよいのです。そして「生命の暗号」の中に次のような一節があります。

「私たちが『こうあってほしい』と望むようなことは、ほぼ一〇〇パーセント可能性の範囲内にあるといつてよい。それどころか、頭で考えて『こんなことはダメだろう』と思うようなことも可能にする能力を私たちの遺伝子は持っていると考えられるのです。世の中では奇跡がときどき起きます。奇跡とは大半の人が『不可能』と思うことが『可能』になることです。しかし遺伝子的には奇跡もプログラムのうち。私たちはみんな『奇跡の人』の可能性をもって生まれてきているのです」(七

五頁)

また村上氏は万物を生かす最高の英知を Something Great (ある偉大なもの) と名づけられています。これは宇宙の創造主を意味すると考えられますが、創造主としたのでは宗教的に響くので英語にされたと思われる。

どうです。遺伝子解説の世界的権威者として昨年度日本学士院賞を受けた科学者がここまで研究して発表しておられるのです。まさにスペースビープルがアダムスキーに伝えた宇宙的な生き方と、アダムスキーが唱えた宇宙哲学の内容を科学的に立証した理論と言えるでしょう。結局アダムスキーは正しかったのです。

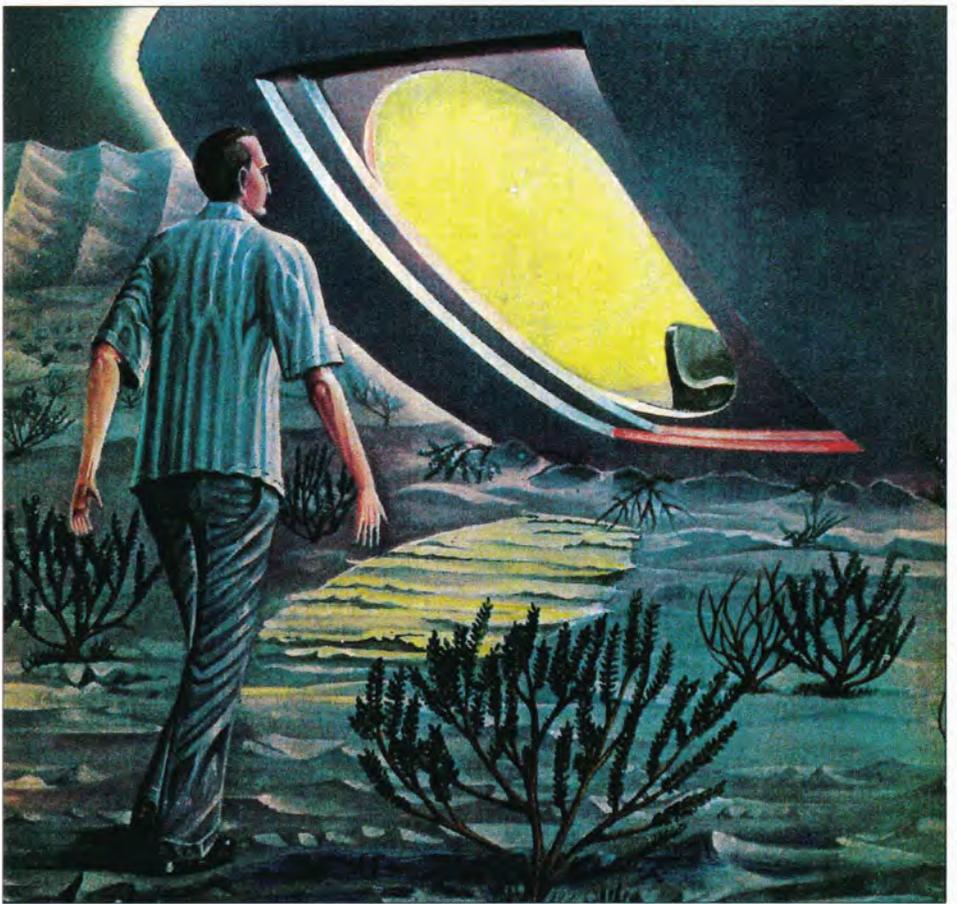
ですから時代は進展しますね。歴史はくり返すことはありません。戦争などをやって歴史がくり返すように見えても、それは進歩のための一時的なつまずきです。

さあ、希望と信念と明るい心をもって前進しましょう。そのためには新アダムスキー全集を毎日少しずつでも読むことです。毎日のように読んでおれば、何かでハッと気づく事があって、目が覚めて全身に充実感がみなぎります。それが進歩というものでしょうね。(ここで会長はアメリカの雑誌を見せ、たつた一人で大聖堂を建てた男の実例を紹介する)

常識を超えよう

以上長々とお話し致しましたが、これらは単なる観念論ではありません。実際にアダムスキー哲学を実践して素晴らしい運命を開拓した人もいます。やいませし難病を治した人もあります。なかにはUFOを頻繁に見るようになった人もいますかと思えば、スペースビープルとコンタクトした人もいらつしやいます。

結局アダムスキーの壮大な話はすべて実話なのであって、作り事ではないということがこれでわかります。アダムスキーのコンタクトが行なわれていた頃からすでに三五六年から四〇年がたちますが、スペースビープルは依然として地球の各地で活躍しておられます。ですから、アダムスキーの宇宙的な体験や哲学は生きています。これはいわゆる常識で考えては理解できないことです。常識を超えるのです。アダムスキー哲学を良く理解して実践する人には何らかの報いはあると思います。詳しいは省略しますが、私が過去約四〇年にもわたって元氣よくこの活動を続行できたということだけでも奇跡的なのです。それは私なりに宇宙哲学の実践を続けてきたからで、それが私の体を活性化させたのです。私は絶対にくたばりません。賢明な皆様方のご理解とご発展をお祈りして、この講演を終わらせて頂きます(盛大な拍手)。



イラスト／池田雅行

ダニエル・フライ／久保田八郎訳

ホワイトサンズUFO搭乗事件(1)

UFO Pick-Up At White Sands

by Daniel Fry / Translated by Hachiro Kubota

〈はじめに〉

一九五〇年代はなぜかUFOとのコンタクトや搭乗事件が各地で発生した。大半は米国だが、これは米国が核兵器開発の先進国であったために異星人たちの注目の的になったと思われる。

ダニエル・フライも体験者の一人である。彼はミネソタ州の出身で九歳のときに両親を失い、あとは祖母に育てられたが、一九二〇年に祖母と一緒にカリフォルニア州へ移住した。

高校卒業後は貧困のために大学へ進学出来ず、昼間働くかたわら夜は図書館へ通って独学を続けた。特に化学と爆薬について学び、爆発物取扱いの技師免許を得てこの仕事に従事するうちにロケット工学の分野に進出したのである。

一九四九年から五〇年にかけて彼はニューメキシコ州のホワイトサンズロケット実験場で過ごした。巨大なモーターのテスト用装置を設置する仕事に従事していた当時、彼は大気圏外から来たUFOに搭乗するという驚くべき体験をもったのである。

後年彼は宇宙科学と哲学の研究により博士号を取得し、オレゴン州で「理解」という宇宙科学と宇宙的な哲学の研究グループを主宰していたが、後に他界した。

编者(久保田)はむかし彼と文通をしていた時期があり、文面から彼の真摯な人柄に感銘を受けたので、彼の著書「White Sands Incident」の翻訳権を得て出版したことがあるが、絶版になって久しいので、ここにあらためて訳出の上掲載した。古い事件であるけれども世界UFO研究史に残る重要な事件なので全訳を連載する次第。

なぜ自分が選ばれたのか

一九五〇年七月四日の夜、私は空飛ぶ円盤を信ずる者の一人となった。その一つを目撃したばかりではなく、私はそれに触って内部へ入り、乗船したのである。しかも自分の感覚器官にまだに信頼できるとすれば、長時間にわたってその操縦者たちと話をかわしたのだ。

しかし今は円盤も去ってしまい、私は自分の宿舎へ帰ったので、いったいあれは本当の出来事だったのかと、しだいに信じられなくなってくるような気がする。

このホワイトサンズ実験場には、ありとあらゆる科学者が集まっているのに、単なる偶然にせよ計画にせよ、一



▶ダニエル・フライ

(訳注)この文章はフライが事件に遭遇して宿舎へ帰った夜に記したものと
思われる)

技術者にすぎない私がなぜ選ばれて本物の(別な惑星から来た)宇宙船に乗った現代地球の最初の人間になったのだろうか。(訳注)この時点ではまだジョージ・アダムスキーはUFO(別な惑星から来た宇宙船)に乗っていない)。
こんな出来事は到底ありそうもないことなので、自分の正気を疑わずにはいられないほどである。
当然のことながら、私が今夜「円盤」に乗ったことを他人に納得させようとすれば、もよりの精神病院の快適な個室の中に入れられるだろう。だがこれは私の人生中の最大の出来事なのだ。そこでまだ記憶が鮮明に残っているあいだに、この事件について正確に記録しておきたいと思う。

事件は暑い夜に発生した

きょうは七月四日なので、私はラスクルーセスの花火大会を見物に行つて自分だけのさやかな祝いをするつもりだった(訳注)七月四日は米国の独立記念日)。

ところが、バスの出発時間を聞き違えたために、町行きの最後のバスに乗り遅れて、ほとんど誰もいない軍の宿舎の中で地団駄を踏んだあげく、自室にすわつて読書する以外に仕方のない羽目におちいったのである。このとき読んだのはコーク著の熱の移動に関する本だった。

夕方の七時半頃に冷房装置の送風機が止まってしまった。これは数日ごとを起こることで、しかも気温が特に高いときに限つて発生する故障なのだ。八時三〇分までには室内にいられないほどむし暑くなったので、外へ出れば涼しく思うて散歩することにしました。

私はオーガン山脈のふもと付近にあるロケット発射台のそばを通つて、エルパソまでつづいている背後の道路へ出た。この道は南方へ九六キロメートルほど伸びている。しかし発射台に着くまでに私は右折して、小さな汚い道へ入り、射撃場を通り抜けてオーガン山脈のふもとの平原の方へ歩いて行つた。この道をたどりながら射撃場を通

つて八〇〇メートルほど行つたとき、初めてその物体を見たのである。

不思議な物体が出現!

太陽はすでに沈んでしまい、あたりは暗くなつていたが、空には星々が輝き、まだ地平線に現われていない月が夜空にかなりな光を散らせていた。

私が峰の上に静止している最も明るい星の一群を見上げたとき、その中の一個が急に消えてしまったのだ!

もちろん私はその場ですぐ目をとめた。星は消えるものではないからだ。とにかく晴れた夜空では消えることはない。

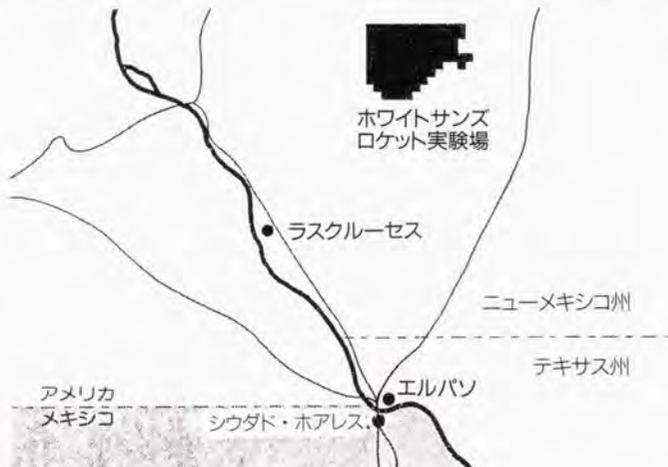
最初私は飛んでいる飛行機がその光をささぎつたのかと思つたが、そう考へても納得はゆかなかつた。飛んでいる飛行機は一点を横切るのに一秒とかからないのに、その星は現われないのだ。しかも夜の実験場の静寂の中にいれば、飛行機の場合、肉眼で見るとより遠方から爆音が聞こえるものだが、音は全く響かない。

その夜、観測気球は打ち上げられていない。打ち上げられたにしても急速に上昇する。だから星をささぎるにしても数秒間だけだろう。

すると右手の別な星が消えてしまい、さらに数秒後にはその真下の二個の星が消滅した。

このときまでには背筋がピリピリする

るような感じが起こつていた。星々を消した物が何であるにせよ、それは急速にはつきりとした大きさになり、しかも空間の同じ位置に見える様子から考えると、その物体がまっすぐに私の方へやってくることは疑いなくつた。やがてそれが見えてくると同時に、もっと早く見えなかつた理由もわかつてきた。その物体の色は夜空の暗黒と同じようにどす黒いために、すぐ近くまで来ても輪郭以外に識別が困難だつ



たのだ。

それはなおもこちらへやって来る。逃げだそうという気持が強く起こったが、爆発やロケット関係の仕事に多くの経験をもつ私は、進路を確かめるまでは接近するロケットから逃げ出すのは愚かなことを知っていた。逃げだせることもある一方、その進路の方へ飛び込むこともあるからだ。それに逃げながらその進路を判断することなどできるものではない。

ニュートンの法則に反する怪物

物体は間近にせまってきたので、その長軸が約九メートルの卵型の球型であることがわかった。時速二四ないし三二キロメートルで進行して来る。地上に着く頃は速度がゼロになるような割合で減速しているらしい。また、進路を変えないかぎり少なくとも私から一五メートルはそれることもなかった。

そのスピードの遅いことに少し安心した私は元の位置にとどまって、物体がまるでそよ風に乗ってただようアザミの冠毛みたいに軽く滑空して、全くパウンドしないで二〇メートル彼方に着陸するのを見つめていた。物体の下敷きになったヤブがメリメリと音をたてた以外、物体は無音のままである。二〇三〇秒間、私は子供が初めてサーカスの演技をみるようにそれを見つめていた。

私は多年ロケットやミサイル開発の分野で働いてきたし、ホワイトサンズでの仕事などによって航空機分野の開発のほとんどに精通していると思っている。しかし今、眼前にはかつて聞いたことのないほどに進歩した飛行物体がいるので、初めてキリンを見て「よく見たけれども信じられない」と言った山奥の農夫のような気持ちになつていた。

「もしソ連がこんな飛行物体を所有しているのなら、神よ、アメリカを助けたまえ！」というのが私の最初の意識的な考えだったが、そのうちソ連やその他のいかなる国から来た物体でもないらしいことに気づいてきたのである。誰がこの物体を作つたにせよ、その人は地球上の最高の物理学者がまだ夢想し始めたばかりの多くの問題を解決しているからだ。

この物体の作動には音を伴わない。プロペラの音もないし、推力を生じさせるためにノズルから噴射される白熱のガスの閃光も轟音もない。天空の彼方から静かにやって来て、地上に音もなく着陸したのだ。たぶんそれが解答なのだろう。

物体が最初に見たときからずっと降下をつづけていた。ただ滑空していただけなのだろう。しかし着陸する前にそれは時速数キロメートルに減速し、落下の形跡を示さなかったのである。これはヘリコプターまたは、空気

より軽い物、しかやれないが、この物体にはプロペラの羽根はまったくないし、地上に着いたときにその下でヤブがベシヤンコになった事実は、物体が「空気より軽い物」ではなかったことを決定的に示している。これが何であるにせよ、ニュートンの最もよく知られた法則にたいして確かに「いたずら」をしたのである。

信じられないほどに滑らかな表面

以上の事柄が我心中に浮かんでいたあいだに、ふと自分が無意識に接近していたことに気づいた。私は英雄ではないし、今でもただの人間なのだ。全く本能的に私は自分と、この未知の物体間の距離をできるだけ大きく保つたのだぞと叫んでいた。

ところが具合の悪いことに私はいつもひどい好奇心にかられてきた人間だったし、その好奇心の対象が科学的な性質のもので、特に重要な発達を上げた物であるときには、その好奇心は狂気じみたものとなって、あらゆる理性を吹き飛ばしてしまうのである。

私は物体から六、七〇センチ以内に接近して、ゆっくりと周囲を歩き始めた。それは空中に見られたとおりの球体で、頂上と底部がかなり平たくて、高さは約四メートル八〇センチ、横の長さは約九メートル、縁の高さが地上約二メートル一〇センチある。

垂直軸から四五度以内の角度で下から見ると、灰皿の形のように湾曲しているが、実際はソース皿の上にスプーンを逆さに重ねたような形である。

最初空中に見えたときに現われていた濃紺色はもう消えていた。ただの磨かれた銀色の金属の表面の状態であり、それにごくわずかかな紫の玉虫色を帯びているように思われる。

物体の周囲を一周したが、入口や継ぎ目などは見当たらない。内部に人がいるとすれば頂上か底部から出入りするにちがいない。

状況を調べるために私は立ち止まった。これからどうすればよいか。基地へ帰って物体の出現を報告するか。最初はそうするのが筋道になつてくるように思われたが、別な考えが起つてきた。基地へ帰って上司をみつけて一緒に引き返すには少なくとも五〇分近くはかかるだろう。そのうちに物体が逃げてしまつたらどうすればよいか。ベシヤンコになつた草むらぎが証拠として残るだけだ。そんなことで誰が信じてくれるだろう。誰かが信じてくれたとしても認めてくれる人はいないだろう。空中を飛ぶ不可解な物体の目撃をうつかり洩らしたばかりに嘲笑をあげせられた例を私は読んでよく知っている。物体が着陸するのを見て、手で触れるほどに接近したのに、ベシヤンコになつた草むらぎ以外に証拠がないということになれば、目撃者の運命

はいわずと知れた結果になる。

こう考えて、ふと気づいた。数分間、物体に触れるほどに接近していながら、実はまだ手で触れていなかったのだ。

たぶん触感によって物体が作られた材料のことで何かがわかるかもしれない。とにかくその温度はわかるはずだ。

**どこからともなく響く声に
驚く**

私は進み出て、滑らかな金属に指の先をこわごわとあててみた。

「船体にさわらないほうがいいよ。まだ熱いんだから！」

この声が突然あたりの静けさを破るまで自分が緊張しきっていたことに気づかなかった私は数フィート飛びのいて低い草むらの中に飛び込み、砂の中に全身を伸ばして腹ばいになった。

くすくすと笑うような声を聞いたが、その声は少しおだやかな調子でまたも流れてきた。

「落ち着きなさい。あなたは友達なので」

私の不格好な姿勢の恥ずかしさと、その声のおだやかな調子と親しみのある言葉などによって、それまでの恐怖心はすっかりなくなつて少々腹がたつてきた。

起き上がって服を手ではたき、髪の毛の中に入り込んでいた草を力まかせに引き抜いた。

「もつと小さな声で言ってくれてもよ

さそうなものだ。そんな調子で私を吹き飛ばす必要はないじゃありませんか。腰を抜かしましたよ」と私は不平を言った。

「吹き飛ばす？」と声がためらうように言つて「ああそうか、あなたは警告の声が大きすぎたというんですね。すまない、仲良しクン。だがあなたはもう少しで死ぬところでしたよ。ゆつくり調節しているひまがなかったんです」

「船体がひどく放射能を帯びているというのですか？　そうだとすれば私はまだ近寄りすぎていることになりませんか？」と私はたずねた。

「放射能は帯びていませんよ。私が熱いと言つたのは、あなた方の言葉で状態を説明するのに、これ以上うまい言葉が見当たらないからです。」

この船体はあらゆる物質に反発するフォースフィールドを帯びているんです。このフィールドは分子間の距離では非常に強力ですが、その距離の七乗に逆比例して弱くなるから、船体の表面から数ミクロンのところでは問題とはなりません。

あなたは表面がひどく滑らかですすべしているのに気づいたでしょう。これはあなたの手のひらが実際には金属に触れていないで、フィールドの反発力によって表面からほんのわずかに離れていたためです。われわれは船体が

着陸するときに傷がつかないように、

この保護フィールドを用いているんです。またこれは大気圏内を高速で飛ぶ必要があるときに、空気の摩擦を極端に減じることにもなるんです」

「しかし、なぜこれが私を殺すことになるんですか？　私は船体に触れて、手のひらが少しビリビリするのを感じただけだが、私の言葉について、しゃれたことを答えたのは、どういう意味なんですか。あなたがアメリカ人ではなかったら、私は耳をかたむけなかったところですよ」

「あなたの最初の質問ですがね」と声は落ち着いて答えた。「すぐにあなたを殺すという意味ではないんです。実際は数カ月かかるでしょう。だがそれは、すぐに」と言うのと同じくらいに確かなことなんです。

最もうまく説明すると、このフォースフィールドに人間の皮膚をさらすと、血液中にいわゆる抗毒素が生じます。われわれにもまだよくわからない理由によって、この抗毒素が肝臓に吸収されて、そのために肝臓がすごく肥大して充血します。皮膚が一分間かそれ以上もフォースフィールドにさらされた場合は確実に死にます。

あなたの場合は大変な危険になるほどにはさらされなかったと思います。ただしあなたは、いずれ何かの影響を確実に感じるでしょう。もちろん、あなたの体の生理的な機能がわれわれの体と同じだと考えてのことです。われ

われの体もあなたのからだも同じだと信ずべき理由がいろいろあるんですがね。

あなたの二番目の質問について言えば、私はアメリカ人ではありません。ただし私の現在の任務によってアメリカ人になる必要があるんです。あなたが私をアメリカ人の一人だと見たことで、英語をおぼえるために過去二年間ついやしてきた努力の甲斐があったというものです。実際のところ私はまだあなたの惑星に足を着けていません。地球の大気や重力に順応して生活に慣れるまでには少なくともまだ四年はかかるでしょう」

なぜ地球へ来たか

長時間のような気がしたが、おそらく数秒間だろう。この言葉の完全な意味を理解しようと私はだまって立っていたが、ついにゆつくりと発言した。「私が自分の目でこの物体がやってきて着陸するのを見なかったとしたら、〈おまえは沢山の空想科学小説を読んだバカだ〉と私は言ったかもしれないよ。だが実際は見たんだから、ほとんどすべての可能性を認めようとしているんです。おまけに、私がここにいたことと、あなたの（船体の）着陸を見たことは全くの偶然なんだから、私が信じようと信じまいとあなたにはなんの関係もないことですよ」

●福山市のUFO写真



- ◇今年7月19日の夕方6時過ぎ頃、福山市在住のUFO研究家 桑田雅則氏が自宅裏側で娘さんの愛子ちゃん（8歳）のお祭り姿を撮影したところ、不思議な白色光が写っていた。撮影時には誰も気づいていない。コンタクティーで超能力者として名高い秋山眞人氏によると、これは異星人が放った超小型円盤で、シャッターが開いたとたんに瞬間的に飛び込んできたのだという。
- ◇桑田氏は日本GAP福山支部代表として活躍している。極めて真摯な人柄と宇宙哲学の探求で会員達から敬愛されている人。このような体験は初めてだという。こうした写真をよく心霊写真とかたづける人があるけれども、秋山氏によれば心霊写真ではなくて、UFO側が何らかの意図のもとに撮影させたものだという。本誌先号に掲載の「東京造形大学にUFO出現」の写真の場合は、UFOが微小なテレポーテーション的動作を繰り返しながら飛び込んだために光の輪が連続しているように見えるけれども、この福山写真はUFOが一気に飛来して停止した瞬間にフィルムに感光するようにタイミングを合わせたものらしい。

「とんでもない」と（異星人の）声は答えた。

「あなたがここでいろいろな事実をよく知って、その結果自分自身の意見を持つ機会を与えられたことは、我々にとって重要なことなんです。ここへ来た主な目的の一つは、地球人の順応性特に彼らの習慣的な考え方にとって全く未知な概念に心を急速に穏やかに順応させる能力の度合いを知ることにあるんです。むかし我々の祖先が行なった地球探検はこの点で完全な失敗に終わったんです。今度はどうやら受容的な人を発見できそうだから、我々は地球人の進歩に何かの役に立ちそうですね。あなたの場合は、少なくとも今までのところは、あなたの振る舞いが我々の最上の見込みを上回ったんですよ。」

私は言った。

「あなたがたの人種は、それがどんな種類の人種であるにしても、我々地球人は少なくとも共通点の一つ持っていることがわかりますよ。つまり「ひやかし」がユーモアの基本的なかたちだということだ。だが、あなたはそんなふうにして私を悩ますことは出来ませんよ。私は「ひやかし」の大家たちからかわれてきたんですからね。」

物体が最初に目についてから私がやったことはすべて間違っていたことは認めますよ。だいいちに、私に分別があるならば、じっと待って物体の下で

べしやんこにされるかわりに、あなたが来るのを見たところだ。いち早くここから逃げ出したところだ。ところがあなたが着陸したときに、私は逃げたり、少なくともかなり安全な距離を保ってじつと立っているかわりに、物体のまわりをうろつく必要があったんです。そしてあなたの警告の声がスピーカーか何か知らないが、そこから流れ出たとき、私は恐れたウサギみたいに飛びのいて、自分でもはっきりわかるほどにぶざまな格好で砂の中にはいつくばったんだ。

最後に言うておきたいことは、これも大切なことだが、私があなたの言葉を信じていると自分で思っているらしい。前にも言ったように、私はあなたの言葉が真実味をおびていると考える余裕はあるんですが、大ホラらしいと思う余裕もあるんですよ。」

地球の科学はゆがめられた

すると相手の声が聞こえた。

「たしか、あなた方（地球人）のあいだには『自衛こそ自然の基本的法則である』という諺ことわざがあったはずですよ。知識欲が動物本能に打ち勝つこともあるというのを見ることができたのは頼もしいね。あなたに警告したとき、あなたの反応は自分で思うかもしれないような恐怖というものではなかった。純粋な恐怖の反応なら、少なくとも一瞬

あなたの体が凍りついて動けなくなるはずだ。だが、あなたは敏捷に、しかも適切な態度で行動した。あなたがためらったという事実は、船体の詳細に関する注意力の集中がきわめて大きかったために、はつきりした退路を確保しなかつたことを示すにすぎないんです。ここで私の話を信じてくれというのではありませんよ。それは我々にとって最も好ましくないことです。いま必要なのは、証拠をあらゆる既成概念に反するような証拠であっても受け入れるだけの受容的な精神の持ち主と、その証拠を即座に吸収して筋道の通った結論に達するような精神の持ち主です。体験したためにあなたが全く特殊な立場にあるにもかかわらず、あなたが静かに私の声を聞いて筋道の通った回答をしているという事実は、あなたの精神が我々の見つけようとしている種類の精神であるという最上の証拠なのです。」

私は言った。「お世辞を有難う。そのお世辞にあたいする人間ならよいのですがね。しかし、あなたの言葉は地球人の科学的進歩をうながす何かの計画に私を利用することをほのめかしていた。なぜ私を（コンタクトの相手として）選んだのですか？ あなたが着陸した場所にまったく偶然に私が居合わせただけのことでありませんか。この基地には科学的知識で私よりもはるかに進歩した人が沢山いるから、そ

のなかの誰にでも簡単にコンタクトできるはずですよ。」

「あなたは全くの偶然にここに居合わせたと言うが、それは我々をひどく過小評価した言い草です。多くの地球人の脳は信念を容易に送信できるが、あなたは受信もできるごく少数の脳の持ち主の一人なんです。自分の宿舎へ帰って調べてみれば、今夜冷房装置が故障していながつたことがわかるはずですよ。」

だが話を元へもどしましょう。我々はあなたの国（アメリカ）の多くの一流科学者の精神を調べてみたんです。そして大抵の場合、我々は科学者たちの精神が既成概念という鑄型で固められていることを知りました。彼らは遠くまで進みすぎているんです。その結果、遠い道のりを後戻りしなければなりません。私の言う意味を響こたえによつてもっとやさしく言うてみましょう。」

科学知識を求める人間は木に登るアリのようなものです。自分では上方へ動いていることがわかっていても、その視野は狭すぎて幹全体を見通せない。そのために幹を離れていることに気づかないで下方の枝の方へ移動するかも知れません。いつときは万事がうまくゆきます。自分ではまだ上方へ登れるし、進歩という果実を少し摘み取ることもできます。だがその枝が急に無数の小枝に分かれていろいろな方向に葉が散らばっているために本人はまごつき始めます。

（以下次号）

UFO目撃日記

加藤純一

日本GAP
東京本部役員幹事



ひんばんにUFOを見る
UFO男がまたも繰る真
重な体験のかすかす。

今年に入ってからUFO男はUFOを目撃し続けています。これらのUFOは当然ながらGAP活動に伴って出現し、そしてまた目撃するという部分に関して言えば自分の精神面と深い関係がありそうです。

特にこの春に引越して心機一転してからは自宅の中にオレンジ色に輝く超小型のスキヤニングディスクが入ってきたのを間近に見ることができたり、自宅にいながらしてUFOやスペースブラザーズの波動を感じたりする機会が多くなってきました。

ここで六月から総会直前までのUFO目撃をはじめとする不思議な体験をご紹介します。

●一日(日) 東京本部月例セミナー会
六月

場の機械振興会館にて楕円形の黒いUFOを一人で目撃。今度は目撃前に後頭部に圧迫感を感じる。振り向いて視線を向けたその空間に滞空していた。カメラを取ろうとした瞬間に視界から見えなくなつた。

●二日頃(土) とても不思議な夢。久保田先生と私、そしてあるGAP会員の三人で船体自体が金色の金星のスカウトシップが着陸するのを間近に目撃するという内容の夢。

●五日(木) 夜九時頃に池袋上空に巨大な円形の光体出現。オレンジ、緑赤の光に変化しながら池袋の上空に一分ほどジツと滞空。光が回転しているように見えはじめてくると突然消えた! 他に二名の目撃者がいる。

●一三日(金) 久保田先生、東京造形大学にて講演。講演中の写真に超小型円盤の軌跡が写る。ただし撮影中には気付いていなかった。夕方、同大学の上空に母船のような葉巻型の不思議な雲が出ていた。この雲はちょうど真ん中を境に乳白色とグレーに分かれていた。小型円盤と関係があったのだろうか?

●翌一四日(土) 川崎市幸区でのUFO写真展へ。朝からUFO出現を予感。本部役員数人にこのことを話す。夕方帰宅後、ビールを飲もうとして手に取ると同時に強烈なテレパシー?を受け取る。「家の中にはいけない!」また、円盤(球体)が空を飛んでいる

静止画像の映像が見えてきた。そこで外に出てみると上空に巨大な一筋の雲があり、ちょうど端の手前あたりで直角に交差するように短い虹が出ていた。カメラを取ってきてもう一度空を眺めていると自宅すぐ近くの上空を横切る小型のUFOを発見! 手持ちのカメラで数枚写す。形は円盤タイプではなく、ひし形で金色の船体に見えた。後日現像してみるとなぜか球体に写っていた。

●一六日(月) 夜七時頃自宅近くにて球体型で星のように光る小型UFOを至近距離で目撃。電線のすぐ上に滞空しており、見つけるとすぐに進行方向とは逆の方向にゆつくり飛んでいった。この時写真に撮ったつもりが、現像してみると暗闇だらけだった。

七月

●二十日(日) 黎明会の夏合宿から帰宅。夜一〇時頃、自転車で自宅へ向かう途中上空に光体出現。はじめは星に紛れて滞空していたが、私が見ていることに彼らが気付く?と突然滑らかに動き出し、スピードを上げて進行方向の星空の中へ消えていった。前日は合宿の中でテレパシーコール観測会や生命の科学の応用などを行なっており、ブラザーズの波動を感じやすくなっていたように思う。

八月

●三日(日) 東京本部月例セミナー終了後の五時半頃に本部役員の大根田君

と共に西の方角に移動する光体を目撃。不思議なことに西から光を受けて遠ざかっているはずなのに進行方向側に大きな影がつき、タマゴ型の本体のおしりの方からはどんだん光が強く出ている。この時は外に出るなり「今、出現する!」という確信めいたものが突然自分の内部に湧き起り、大根田君にそのことを伝えて空を見ていたのを覚えてる。

●二四日(日) 日本GAP主催イスラエル旅行第一回目の説明会の朝。二人のスペースブラザーズの夢を見る。直接本人達が出てきた夢は久々だが一人は以前に久保田先生とご一緒の際に実際にお見かけた方だという印象が強い。もう一人の方が要望を伝えられた。後日先生にお話しすると、とても重要なアドバイスを頂くことができた。

●未日(九月初め頃) 度々不思議な夢を見る。中でも円盤の乗組員から(上空から) 緑色(エメラルドグリーン)の光線を顔に当てられるという奇妙な内容は九三年に実際に同様の体験していたことを思い出させた。

さて、私自身、自己の体験をこうして改めて考察してみると、数年前に比べて目撃の仕方や内容も変化してきたことがわかります。特に以前はUFOが近くにいるという漠然とした印象やフリーリングが中心でした。



▲今年6月14日(土)午後4時頃、筆者の自宅の空を横切るUFO。連続9枚の内の1枚。 撮影/加藤純一

しかし今年に入ってからには目撃に伴うスペースブラザーズが発する特有の心地良い印象やフィリングもさることながら、はっきりとした感覚によって明確に予知できる場合があるということを発見したのです。例えば明らかに身体感覚上、気付かざるを得ないパターンがあります。それは、

- ①眉間に微弱振動を感じる時。
- ②頭頂部または後頭部に脈動を感じる時
- ③耳に異様な圧迫感を感じたり音として入ってくる場合。

この三つのパターンはかなり特殊な例ですが、身体に直接影響があることから、もしかしたら上空からの直接のアプローチなのかもしれません。

また、目撃の内容自体についてもUFO特有の金属質のボディを確認できるほどに至近距離で目撃できるようになったことはやはりスペースブラザーズ側の私にたいするUFOの見せ方やアプローチの仕方が確実に変わった証拠だと思えます。数年前までは「あれは本当にUFOだったのだろうか？」と後日疑問符をつけてしまうような判別のつけにくい目撃も多かったのですが、ここ最近では明らかにUFOだ！ということがすぐにわかるのです。これは目撃前のフィリングや特殊な感覚を肯定してくれるもので、自信もついできます。

また、私はよくUFOやブラザーズの夢を見ることが多いのですが、これらはどれも非常に鮮明でまるで映画のような印象を受けます。そう、まさに「映像」を見ているという感じです。

そしてこれらの夢は予知夢としての機能を果たすようになってからは特に意味がある重要な存在となりました。

そして最近はそのような鮮明な映像がUFOの出現直前に見えてくるようになりました。

九月

●七日(日)総会開催までちょうど一週間前のこの日の夕方五時四十五分頃に今まで見たことのないUFOを目撃しました。自宅で総会の準備をしていたところ、突然UFOが飛翔している静止画像が頭に入ってきたので打ち合わせに来ていた本部役員の方々と外に飛び出しました。すると西の空から強烈な波動？がやってくるのがよくわかりました。そこでその辺りをボーッと眺めて見ていると数分とかならないうちに雲の上にはつきりとしたV字型に光るサインが突然出現したのです！ところがよく見ているとこれは楕円形の少し細長いタイプのUFOが二機滞留しており、その船体自体が光っているのを確認できました。さらに他の役員が気付きはじめると輝きを弱めて雲の中にゆっくり入り込んでゆきました。その時に本体がはつきりと見えてきたのですがボディは金色がかかった乳白の柔らかい色で、しかも半透明のように見えました。その美しい機体はまるで芸術品のように見え、自分の意識の深いところまで浸透してゆくような印象を受けました。

この目撃からも彼らブラザーズは明確な意図を持って私にアプローチしてきたように感じます。その意図を様々

な方法ではありますが感じ取ることができるようになったことはアダムスキー哲学を久保田先生のもとでじっくり学んできた良き結果だと思っております。

さて、さらに驚くべきことはこの日、時間を少しずらずらしながらではあります但本部役員の遠藤昭則氏が六時頃に千葉方面で、副幹事の津田篤孝氏が六時一〇分頃に一〇分間にもわたって東京の三鷹市にてそれぞれ劇的な目撃をしていることです！特に津田氏から七時過ぎにお電話で報告を頂いている最中にも再びUFOが津田氏宅付近に出現し二人を大いに驚かせました。

やはりスペースブラザーズは明確な意図を持って、しかもスペースプログラムに従って整然と行動されている様子が今回の役員に対する出現によって証明されたように感じます。このことから久保田先生が遂行されているこの日本GAPの活動がいかにスペースブラザーズに注目されているかがよくわかります。彼らの乗り物であるUFOを目撃するたびにGAP活動およびアダムスキー問題がいかに重要な問題であるかを再認識させられるのです。

そして自分にはこの地球のためにどんなことができるのか？という命題をつねに忘れずに持ち続けることと、この永遠なるGAP活動をやり続けてゆくことが大切なのだと思う今日この頃です。

マゲドンでイエスが目に見えない形で出現するのだ」という見解で、目に見えない形とは「霊的に」という意味で、したがって十字架にかけられ、三日目に復活して天へ昇った際、イエスは「霊者になられた」という解釈をせざるを得なくなつたと思われま

る。そのためかどうか、聖書に頻繁に記述されている「み使い」をも「霊者」として扱っています。「み使い」はまぎれもなく異星人であり、肉体を持つた人間であることは聖書の記述を見れば

ばはつきりしてきます。

古代人が「神」または「エホバ」と言っているものは、したがってUFOのものであると解釈してよいのではないのでしょうか。私はそのことをはっきりと、その若い○○○○が二週間後に訪れて来たときに証言してやりましたところ、今度は彼も冷静に私の話を聞いてくれて、「あなたがそのような科学的な証拠を提示して言われるのなら、UFOを是認されるのももつともなことです」と言つて帰つて行きました。

何よりも彼らは非常に穏やかで人と争うことを好まず、聖書の原則に沿つた教えを自分達の生活にあてはめるように努力していることに関しては尊敬にあたいします。ただし聖書の預言はアダムスキーが述べていますように、その当時の人達のためのものであり、必ずしも現代には通用しないと思ひます。

たとえば彼らは聖書の記述から「神の王国のよい便りを述べ伝える業を徹底的に続けてゆくことがイエスの足跡にならうことであり、永遠の命を得るという報いを受受することができる唯一の方法である」と信じて疑わないように見えます。

この永遠の生命とは一体どういうことなのでしょう。それはハルマゲドンの後にエホバ神に忠実な彼らだけが救われ、地上の樂園が誕生して、そこ

では永遠の命が保証されるのだということ、まことしやかに信じ込まされているのです。とかく宗教団体のすることといえば、自分達の宗教上の都合に合わせて物事を歪曲し、真実を直視するのを恐れているのか、発行している雑誌や書籍類の中で盛んに神への信仰を標榜して、信者に精神的圧力を加えることを忘れません。

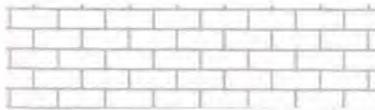
永遠の生命とは魂の問題であり、アダムスキーの伝えた情報どおり、人間はわずか三秒で生まれ変わるのであれば、生命はすべての人が永遠であることとなります。このようにしてほとんどの宗教団体は何らかの形で人々を恐怖心によつて支配しています。

何はともあれ、私は彼らの信仰とその真摯な行動に触発されたのかもしれないが、ユーコン誌の書店卸ボランティアを今から勇気を振り起こして、固い決意をもつて行なわなければ、私は神すなわち創造主にたいする奉仕活動とは全く縁のない不敬虔な人間にすぎないことを認めざるを得ません。

ユーコン誌一三七号の先生の巻頭言を始め、かずかずの感銘を受ける記事に、今更のように先生のご努力に深い感謝の念を覚え、スペースブラザーズの愛に報いるための自分自身のこれからの行動がどのようなものにならなければならぬかを悟りました。先生にはいつまでも健康で長寿を保たれますように心からお祈り致します。



▲旧約聖書の「エゼキエル書」に出てくる預言者エゼキエルが見た四つの顔をもつ乗物とは、古代に着陸した別な惑星から来た宇宙船であつたのだろうとアダムスキーは述べている。この絵はイギリスの航空画家でパイロットのキース・モスリーが「エゼキエル書」を綿密に検討しながら描いたもので、聖書の記述と大体に一致する。



偉大なるアダムスキー哲学

日本GAP伊豆支部代表

高梨 十光

ア哲学で透視能力を開発した私

日本GAPに入会させていただき、ジョージアダムスキー氏の宇宙哲学を勉強させていただいてから、長い年月が過ぎた。

テレパシーの能力が格段に向上したと感じたのは、数年前のことだった。針灸院を開業した当初の頃であった。

初めて来院される患者さんを前日に透視をするというようなことも行なった。姿形、表情、どこが悪くどこをどのように治療すべきかを透視し、記録しておく。当日来院された患者さんを実際に診て、どこがどのように違っているのかを評価する。また自分の透視の技術についてもどのような傾向にあり、どのように調整すればよいかという点で、とてもよい勉強になった。

それまではどうかというと、単独で研究していたために、壁にぶつかって、そこにどまっていたのだった。

このある意味での「開眼」に至るには、多くの要素があったと思う。だが「ああ、こうすればいいんだ」と強く感じたいいくつかのシーンは今でも鮮明に思い出すことができる。

私が急速に透視能力を向上させること

になったあるシーンについては、またの機会にお話することにしよう。

「生命の科学」を印象で読む

かなり以前、気魄のある日本GAPの会員は日本GAP会長久保田八郎先生の訳された「生命の科学」を含む三大哲学書、そして三大コンタクトストーリーを読むことに明け暮れていたのだった。誰よりも多く読むことに夢中であった。

それから年月を経て、ある日本GAP会員の方から、「生命の科学」を一番読んでいる方はどなたと聞きますか、と尋ねられた。私は一瞬混乱して答えが出なかった。何故ならば質問の内容が初めての内容だったからだ。そして久しく「生命の科学」の話題に接していなかったこととや他の理由で、すぐには答えが出なかった。

その方はこう答えられた。

「それは〇〇です」

私は驚いてしまった。確かにそのとおりだと私も思った。さて、〇〇とはどんなでしょうか。テレパシーで透視して下さい。

さて、「生命の科学」のレクチャー9はレクチャー1とともに最重要だから、よく読むようにと指導されてきた。

また内部の印象に従いながら読むことが重要なのだと指導されてきた。極端に言えば、うわっただけでどんなに読んだとしても、自分の内部の宇宙の意識と

ともに読まなければ、理解度は少ないということである。

「生命の科学」を読むときばかりではない。あらゆる書物や記事を読むのも印象に従うと理解が深まる。

読むことばかりではない。何事でも内部の印象に従って行なうことだという。心の底からごまかすことのない心境で宇宙の意識を感じながら生きるならば、これほど完璧なことはない。

テレパシーの練習はどこでもやれる

以前、富士市で移動月例セミナーを開催したとき。副代表の赤池氏が富士駅に迎えに来て下さることになっていた。私は久しぶりに在来線に乗るので、懐かしい想いかられていた。混んでいて席に座れないこともあって、早く富士駅で降りたかった。

各駅停車の数をかぞえながら、「まだ着かないのか」と待ち遠しい。移動月例セミナーが成功するようにという興奮もあった。

見慣れた駅が見えた。さあ富士駅だ。勇んで降り立った。

しかし様子がおかしい。そこは富士駅の手前の吉原駅であった。これで大きく遅れることになり、待ち合わせを約束したメンバーに平謝りしたのでした。

なぜ駅を間違えたのか分析してみると、心は昔の懐かしい想いに乱れ、なおかつ心は昔の情景に満ちていて、昔の富士駅

に似ている手前の駅が富士駅に見えてしまったからだ。反省したのはいうまでもない。

ある日、すぐ近くのゴルフの打ちっぱなしの練習場に徒歩で出かけた。夏の炎天下であったが、その日は風が涼しくて汗も出ずに快適であった。練習が終わって山道を歩くと緑が輝き、宇宙の意識とともにあることを感じていた。この緑の命も永遠なのだというようなことを感じながら、清流の流れる川のそばに着いた。たらずで川を見ると上流に頭を向けた魚が時々体を強く跳らせるので、あざやかに銀鱗が反射する。この次はどこで光るかなとテレパシーの練習をしていた。

ふと視線を上流に目を移すと、鴨と思われる鳥が上流に向かって泳いでいる。比較的早い流れなので蛇行して上つていて、向きを交互に変えるたびにこちらの様子をはかっているようだ。その仕様がとても可愛らしいのでしばらく見ていた。

リラクソスの重要性

他の惑星の人体の生理学は超ナチュラルなものである。ジョージ・アダムスキー氏は具体的な難解な説明を省き、ものすごく簡単にそれを説いている。

ジョージ・アダムスキー氏が説く宇宙哲学に基づいたリラクソス法は、心理学上でも卓越した方法だ。これを実行するとすごい変化が起こるだろう。

★今年度総会、大盛況

予告のとおり今年度の日本GAP総会は去る九月一日、都内港区の機械振興会館で予定どおりに開催され、約一六〇名の出席者のもとに大盛況裡に終了した。今回は久保田会長が「GAP・UFO・宇宙哲学」と題する講演を一時間半行ない、ユーモラスな語り口で秘話等を展開。宇宙的な生き方について有益な哲学を伝えて盛大な拍手のもとに終了した。つづいて遠藤昭則本部役員によるテレビシーコンテストが行なわれ、優勝者一名に賞品を贈呈。最後は「躍進する日本GAP」と題するビデオを一時間映写して多大の感銘を与えた。

そのあと六時からは同館六階の大広間で立食形式の大夕食会を開催。一〇八名が参加して飲食を共にしながら歓談の花を咲かせ賑やかなひとときを過ごして八時に散会。つづいて新橋駅近くの料理店「天狗」でさらに有志による二次会を行ない、深更まで愉快に過ごした。

翌日の観光は雨のため、予定していた葛西臨海公園行きは中止して一同で新宿のタイムズスクエアへ行き、屋内を楽しく周遊した。

★久保田会長との質疑応答会

本号四五頁に予告を掲載のとおりたる一月二二日(日)午後一時より埼玉県大宮市の大宮ソニックシティでGAP内の研究グループ黎明会が久保

田会長を囲んで第四回目の質疑応答会を開催する。誰でも参加可能なので多数の出席者が期待される。

★イスラエル聖地遺跡の旅

既報のとおり、今年より日本GAPの海外研修旅行を再開することにし、イスラエル行きを発表したところ、予想を上回る参加希望者があった。九月二〇日現在で申込者は二五名に達している。最終的には約三〇名になる見込み。過去に日本GAPはイスラエル旅行を四度実施しており、今回で五度目になるのに依然として参加者が三〇名近くに達する見込みがあるのは驚くべきことで、それほどに日本GAP会員はイエス関係の遺跡から発する高貴な波動に触れることを希求していると思われ、大成功が予想される。

★日本GAP、テレビ朝日の海外向けニュース番組に出演

去る九月一日、久保田八郎会長と加藤純一本部役員幹事の二人は、テレビ朝日の「クリック・オン・ジャパン」と題する海外向け深夜番組に出演。二人による日本GAPの活動状況の説明や、本誌、新アダムスキー全集その他の資料を紹介。数名のキャスターの英語解説による画面がアジア一帯とアメリカ、カナダに放映された。これは日本GAPが国内最大のUFO研究団体として高く評価されたため。

GAPを取材したテレビ朝日のディレクター、デズリー・リムさんはマレ

ーシア、クアラルンプール出身の才媛。八月の東京月例セミナーを取材してから俄然日本GAPに関心を高めてGAP会員になった。彼女は英語、日本語、北京語、広東語、マレーシア語の五カ国語を母国語として話す語学の天才。日本への永住を希望している。今後は有力なGAP会員として交流の輪が広がると予想される。

★東京月例セミナーも盛況

日本GAP東京本部は毎月第一日曜日に港区の機械振興会館で月例セミナーを開催している。これは会員の宇宙哲学の研修を主体とするもので、会長の有益かつユーモラスな講演のあとでは珍しいUFO関係のスライドやビデオ等を映写している。近來出席者が増加して会場が手狭になったため、今年一月七日(日)からは地下三階の第二研修室に会場を変更の予定。会員でなくても入場可能。会場では架設売店を設置して新アダムスキー全集、久保田会長のUFO関係図書、GAPのグッズ等を販売している。

★秋田支部大会、来年度にまたも開催

秋田支部は隔年ごとに支部大会を開催しているが、来年度は一月二二日(二連休の初日)に第七回の大会を開催の予定。詳細については来年七月発行予定の本誌に予告を掲載。

★各地支部の月例セミナーも活発に開催中。

日本GAPには全国に一六支部があ

り、毎月一定の日にセミナーを開催している。これは本部のセミナーで久保田会長が行なった宇宙哲学解説講義を録音テープまたはビデオで音声聞きながら学習したり討論を行なったりするもので、実質的には東京月例セミナーの受講と大差はない。地方の会員諸氏には好都合な機会となる。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、GAPの運営と発展に寄与するための援助活動で、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が毎月初旬に個人で発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その他興味深い記事が満載されている。特徴はいつも大いなる信念と勇氣と希望を起こさせる内容にある。このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつしりと印刷された記事が4頁分ある(折って綴じれば八頁分になる)。美しいオフセット印刷。

★GAPグッズのテレカ頒布中止

近來携帯電話やPHS等の普及によりGAPテレフォンカードの需要が激減したため、現行のテレカ第八弾でもって頒布を中止する。これに代わるグッズとしてバインダーを検討中。

〈宇宙〉

■NASA火星探査機、着陸成功

見つかるか「火星の生命」一カ月の活動開始、表面の画像送信

米航空宇宙局「NASA」の火星探査機「マーズ・パスファインダー」は米太平洋夏時間七月四日午前九時五七分（日本時間五日午前一時五七分）、火星の赤道に近いアレシ谷に軟着陸することに成功した。火星着陸は一九七六年の米探査機「バイキング2号」以来二年ぶり。太陽電池パネルも順調に展開し、撮影デ

ータの送信を始めた。惑星探査史上初めて小型ロボット探査車を使う火星の表面探査がスタートし、火星の生命につながる新発見に期待が集まっている。

NASAのジェット推進研究所（JPL）によると、着陸したのはアレシ谷の中の平らな低地。目標地点から二〇キロ離れたポイントだった。パスファインダーは着陸二秒前、火星表面から数十メートルの高さで、今回の着陸方式の最大の特徴であるエアバッグを膨らませ、時速四〇キロで火星表面に衝突、一五メートルの高さにはね上がったあと、二回目は七メートルバウンド、さらに最低も一回バウンドして静止。衝突時の速度は予想より早く、表面付近の大気が予想より薄かったことを意味するという。

パスファインダーは着地点で、「ハロー。私は火星にいる」という意味の信号を地球に送信。火星から地球まで電波信号が届くのに一〇分三五秒かかり、パサディナにあるNASAのJPLは午前一〇時七分過ぎ、この信号を受け取った。その後、パスファインダーはエアバッグを収縮させ、中にあった着陸機の三枚

の太陽電池パネルを展開。降下中に観測した火星大気の数値を送信し、続いて着陸機のカメラが撮影した画像データの送信を始めた。着陸機は最低一カ月の活動が予定されている。

今回の目玉であるソジャーナーは全長六五センチ、重さ一〇・六キロ。太陽電池パネルやリチウム電池で駆動し、地球からの遠隔操作で、着陸後最低七日間、岩石や土の組成をアルファ線とエックス線で調べたり、立体カメラで表面の様子を撮影する。秒速一センチと遅く、行動範囲は数十メートルに限られる。

NASAはパスファインダーを皮切りに二〇〇五年までに一〇機の火星探査機の打ち上げを計画しており、「その重要な第一ステップになる」とパスファインダーの成果に期待する。（7・5毎・読・朝）

■火星に洪水証拠あり」山に筋・丸い石・向きが同じ

運河があるのでは、恐ろしい宇宙人が住んでいるのではないかと、昔から人類のロマンをかきたててきた火星に、洪水の痕跡があると、米航空宇宙局（NASA）が七月六日（日本時間七日）発表した。探査機マーズパスファインダーの着陸船から送られた映像の分析でわかったという。専門家からはもっと調査をとの声も上がっているが、NASAは自信をもっているようだ。果たして生命は存在していたか。期待はさらに高まっている。米航空宇宙局（NASA）のジェット推進研究所（JPL）は六日、米探査機マーズパスファインダーが着陸した火星のアレシ谷に大洪水があったことを示す複数の証拠を見つけた、と発表した。複数の洪水が山の斜面を削り土砂を押し



▲火星探査機「マーズ・パスファインダー」が着陸成功後に送ってきた映像。手前に見えるのが小型探査車「ソジャーナー」。

流した跡や、丸まった石があることを確認したという。「豊富な水の存在は生命を大きくむずかしい環境だ」と、研究チームは期待を膨らませている。

JPLによると、着陸地から約二キロ離れた連山のうち左側の山に、土砂崩れでできたとみられるスキー場のような白い部分があり、もう一方の山にも水平に筋がついているのが確認された。いずれも二〇億年から三〇億年前、火山活動など急激な環境変化で氷が解け出し、大きな洪水が起きて山の斜面を削ったとみている。

また、アレソ谷に散らばっている岩石はほとんどが角張っているが、着陸地の近くでは角が取れた丸みのある石も数個見つかった。石の下側も丸く、風化だけによるとは考えにくいという。研究者は「多くの石が同じ方向に向いている。洪水の影響を受けた証拠だ」とも言っている。石のばらつきから、いく筋もの水の流れがあったとみられるという。分析にあたった火星探査チームのアリゾナ州立大、ロナルド・グリー博士は「形、大きさとも水の流れて運ばれる途中、角が削られたと考えられる」と説明した。

二一年前に別な場所に降りた探査機ハイキングでは水の存在を示す証拠は見つからなかった。(7・7朝)

■火星と地球、やっぱり「兄弟」

石調べたら似た成分—南米の安山岩と米航空宇宙局(NASA)のジェット推進研究所(JPL)は七月八日、火星探査車ソジャーナーが分析した火星の石の成分などを発表した。最初に調べた石は地球の火山岩の一種である安山岩によく似た成分であることが判明。火山活動

など地球と似た星の成り立ちを示しており、大洪水の痕跡とともに火星の素顔が次第に見えてきた。地球以外の惑星の石の成分を直接調べたのは初めて。

成分分析に成功したのは「バーナクル(ぶじつほ)・ビル」と名づけられたフットボールほどの大きさの石。「アルファプロトンX線分光器」を使ってアルファ線を石に照射、跳ね返ってくる陽子やX線から化学成分を分析した結果、アルミニウムやケイ素、鉄、カルシウムなど約一〇種の元素から成り立っていることがわかった。特に、石英(二酸化ケイ素)の含有量が多く、これまで地球で見つかった火星から飛来したとみられている隕石にはない特徴。南米アンデス地方の安山岩に似た成分構成だった。

急激に熱が加わって生成されたとみられることから、探査チームは「バーナクル・ビルは火山活動か、隕石の衝突によってできたと考えられる」と話している。二一年前の米火星探査機ハイキングでは着陸地の土の成分しか分析しておらず、石の化学分析は今回が初めて。生命の直接的な手がかりは見つかっていないが、火星と地球は約四六億年前に太陽系が形成された時にほぼ同時にできた「兄弟星」。その生い立ちを知る上で重要な手がかりとしている。また、ソジャーナーが走行した部分の土の成分分析では、ハイキングの探査で判明したチタン、アルミニウム、カルシウムのほか新たにカリウム、マンガンが含まれていることがわかった。(7・9朝)

■火星の洪水—水はどこからどこへ

探査機マーズパスファインダーを火星に送り込んだ米航空宇宙局(NASA)



水たまりの跡? NASAの火星探査機マーズ・パスファインダーの着陸船が撮影した画像。上部にある大きな岩の手前に、水たまりが干がって出来たような円形の「跡」がうっすらと浮かび上がっている(白矢印)。洪水の痕跡とともに、火星に水が存在した有力な証拠とNASAの研究者たちは考えている。

は「着陸地点のアレス谷付近で、かつて大規模な洪水があった複数の証拠を見つけた」と発表した。しかも、地中海の海水に匹敵するほどの水量だったという。水そのものが見つかったわけでもなく、「発見」の根拠は着陸船が撮影した画像だけ。なぜ、どうして大洪水なのか。その水はどこに消えてしまったのか。

六日のNASAの発表は「洪水は幅数百キロ、深さ数百メートル」。翌日明らかにされた「地中海を埋めるのに十分」という水量は、探査チームの地質学者マイケル・マリン博士が記者に尋ねられて「水量の推定は難しいが、強いて言えばこれくらい」と答えたものだ。

ただ、水が流れたということについては自信を持っているようだ。手掛かりの一つは、一列になって右に傾きながら折り重なるように並んだ岩の列。水に流された岩が、流れの中で落ち着いた時に特有の姿だ。建設省土木研究所の藤田光一・主任研究員（河川工学）は、このような岩の並び方は地球の洪水でもっとも明確に観察されるという。

水流に削られ、角がとれて丸みを帯びた岩も見つかった。さらにチームは、一二キロ離れた丘「ツイン・ピークス」に注目。中腹に、水で削られた跡とみられるくぼみを発見した。そこで水があったわけだ。最高水位がわかれば、周辺の地形と合わせ、どれぐらいの範囲が水没したかわかる。幸い、二一年前の探査機パイキングが撮影した写真をもとに、解像度百メートル程度の詳しい地形図が表面の九七パーセントで作られており、これを利用してようだ。

かつて火星に液体の水が大量にあった

ことに異論は少ない。

国立天文台の渡部潤一・広報普及室長は「火星には昔水があつて、その水は蒸発してしまつたという説と、中に氷として残っているという説がある。この水は主に、水でできている彗星が衝突してもたらした可能性がある。ヘルル・ポツプ彗星や百武彗星の水が地球の水と似ていることがわかつてきており、その証拠とみることもできる」という。

松井孝典・東大助教（比較惑星学）も「火星をつくった材料物質に水が含まれていたことは、隕石の分析からもわかつていて、地表に凍りついていて、それがマグマの噴出で溶け出し、洪水のような流れになつたのではない。岩の向きだけでなく、谷のような地形があるのだから、大量の水があつたとみるのが自然だ」と説明する。

現在の火星は平均温度が零下五三度、液体の水はほとんど存在できない。水があるとしても極地方の地下に凍っていると考えられる。一部は宇宙空間に逃げた可能性も指摘される。

火星は質量が小さいので重力も弱く、地球の四割しかないからだ。米探査機マリナー9号は、火星の上層大気で水素原子が宇宙空間へ逃げて行くのを観測している。そのうち半分が水蒸気が分解してできたものだとすると、火星は一日あたり二一トンの水を失っている計算になる。（7・11朝）

■火星の生命論争は未決着

米空中米航空宇宙局（NASA）のゴードン・マッケイ惑星科学部長は、火星の生命論について「論争は決着していない」という。ゴードンさんは昨夏、

「隕石に生命の可能性を見つけた」と発表したNASAのデービッド・マッケイ博士の弟。共に火星隕石を研究する「いんせき関係」にある。一年前から話を聞いており、投稿前の論文も読んだが「強い状況証拠。だが、決定的な証拠ではない」という印象だったと話す。一方で「証拠とされているものは生物が存在しなくてもできるという反論も、同様に決定的ではない」という。（7・11朝）

■火星大地の大パノラマ

米航空宇宙局（NASA）は七月二二日、火星探査機マーズパスファインダーの着陸船から送られてきたカラーの最新パノラマ画像を公表した。マーズパスファインダーとNASAとの通信は、一九日から断続的に途絶えていたが、二二日には完全に復活。今回の鮮明な画像は、すべての装置が順調に作動していることを示している。

NASAのジェット推進研究所によると、地平線までみわたせるパノラマ画像には、火星の大地が非常に鮮明に映し出されており、かつて洪水があつたとみられる痕跡がはっきりと確認できるといふ。アリソナ大の研究者は「あちこちに砂あらしによってできたと思われる形跡も認められる」など、画像が伝える新たな情報を説明した。（7・23朝）

■火星の雲、くっきり撮影

米航空宇宙局（NASA）は七月二二日、無人火星探査機「マーズパスファインダー」が、火星で水の存在を裏づける雲を撮影したと発表した。

火星の大気には水蒸気が含まれていることや、極冠が氷でできていることは、一九七六年の米探査機パイキングの観測で

わかつている。また、ハッブル宇宙望遠鏡も今回と似た白い雲をとらえたことがある。このため、水の存在は科学者の間で周知の事実となつていたが、火星表面から今回ほどはっきりと雲が確認されたことはなかった。（8・1毎）

■「計算科学」の初の拠点完成

東京理科大、千葉に

理論、実験に次ぐ第三の科学として注目される計算科学。東京理科大は、その拠点となる計算科学フロンティア研究センターを野田キャンパス（千葉県野田市）に完成させた。米国の計算科学の中心の一つ、コーネル大理論センターとも研究協力していく。

四階建ての同センターには、四八個のプロセッサを備えたIBMの超並列コンピュータRS/6000を中心に、シリコングラフィックス社の画像専用コンピュータ・オニクスなど最新のハードを備えている。RS/6000はチェスの世界チャンピオンを負かしたコンピュータと同型の機種だ。

これらを駆使して原子の振る舞い、液体や気体の動き、破壊の機構などを解析し、分野をこえた学際研究に取り組む。

コーネル大理論センターは、計算科学で初めてノーベル賞を受賞したケネス・ウィルソン教授が開設した研究所。宇宙物理やたんばく質構造の研究を中心に共同研究を進める。

西川哲治学長は「分野を超えて計算科学に取り組む施設は日本の大学にこれまでになかった。二一世紀の新しい科学をつくりたい」と話す。（7・2朝）

現代の 科学レベルを思う

浜田敏博

職業自己と本質自己

日本を代表する精神医学者の一人に、森田正馬博士がいます。師の言葉の中に「とらわれとは自己と自己の表象とを同一視し、表象された自己を自己とみなし、その自己の保全要求のために両者の自己同一性を確保せんとする一種の自己愛的表現と考えられる」という箇所があります。

この言葉の中の自己の表象とは、一般社会の中で表わされる自分の姿であり、その、いわば職業の自己こそが自分なのだと思えるところにとらわれ、執着が生まれるということです。

もし、職業の自己だけが自分の全てだとしたら、会社人間として人生の大半を送り、定年退職後に職業の自己がなくなつたときに、自分そのものがなくなつてしまうことになりませう。

やはり人間には、定年退職後にもなくなるのではない本質と自己というものがあると思います。これを見つめることによって、人は人生の生きがいを見出し、いくと思ひますが、それ

は自分とは何物かという問いから始まつていくことになるでしょう。その答えをアダムスキの宇宙哲学から学んでいきたいと思ひます。

反重力の仮定からのUFO運動について

みなさんはもう「インデペンデンス・デイ」という映画をご覧になられたでしょうか。私はお正月の元旦の日にこの映画を観てきました。

この映画の主要部分は、地球侵略を企てる地球外知的生命体がUFOに乗って、その本体にあたる大型母船を用いた周辺領域において、中型母船が世界の各主要都市の上空にやってきて、特にアメリカを舞台として人類との戦いが行なわれるというものですが、私もUFOが存在するとしても、この映画のように、彼らの全てが新人類に対して悪意を抱いてやってくるとは思ひません。彼らの内のほとんどは人類との友好を求めてやってくるUFOであるだろうと考えています。

ところで、私自身の関心事としては、いわゆるUFOのアル・ナシ論争よりもむしろ、もしUFOが存在して地球にやってくるとすれば、UFO自体は人類の現代科学の能力をはるかに超えたものであるのですが、それをあえて現代科学の知識をもって把握するならば、どのようなものになるのだろうか

という視点から考えることになりました。そして私は「反重力の仮定からのUFOの運動について」というテーマをもって、以下にその事柄について記述していかうと思ひます。

★一般に物理学においては、マクスウェル方程式により、電場の発散は、ナブラ演算子と電場の内積が、電荷密度を真空の誘電率で割つたものに等しいという方程式により表わされますが、磁場の発散については、電荷に対応する磁荷というものが存在しないことから、ナブラ演算子と磁場との内積はゼロになります。

ここで仮に磁荷というものが存在したとすると、磁荷密度と真空の透磁率を考えれば、ナブラ演算子と磁場の内積が磁荷密度を真空の透磁率で割つたものに等しくなり、その値はゼロでないという方程式をつくることができます。

この考え方をさらに発展・応用させて、重力(質量)に関しても電荷、磁荷に対応する「重力荷」というものがあつたと仮定すれば、電場や磁場に対応するものを重力場として、また、電荷密度や磁荷密度に対応するものを重力荷の密度とし、真空の誘電率や真空の透磁率に対応する真空の重力荷の伝達度を考え出せば、ナブラ演算子と重力場の内積は重力荷の密度を真空の重力荷の伝達度で割つたものに等しく、その値はゼロでないという関係式が現

われることになりましたが、これがいわゆる「反重力」の出現を予言した関係式になつておられると思ひます(このことは、ガウスの法則においての物理量の発散現象との比較を考えても、確かに認められることです)。

さらに、未確認飛行物体(UFO)が自転しながら速度Vで微振動し、上記の重力場の影響を受けながらも大気中に浮かんでおられるとすれば、大変大ざっぱではありますが、この現象は、ナブラ演算子と速度の外積が重力場を時間で偏微分したものに等しい、という関係式により表わすことができることになると言えます。

(ちなみにこの関係式は、地球の重力場の時間変化に対して、UFOはその回転運動を主体とする速度の、やはり時間的な変化を行なうだろう、ということを意味しています)

ただし、こういう表現方法は、例えばUFOという事象があるのかどうかをサーチしていく正式な科学の方法とは異なり、その事象自体をア・プリオリに認めた上で、その事象の運動の様子を関係式により記述するといった、本来のサーチ部分を仮定とした上での二次的な記述になるのですが、もし本当にすでにUFOの存在が確認されているのならば、(今回の場合は私は電磁気学の類推からの重力場の演算式を導き出したものではありませんが)もうそろそろ科学者の方々も、私とは当

然に違った形式であったとしても、そのようにUFOの運動方程式や運動の公式などを表現し始めても、いいのではないのでしょうか。

あるティーチインに参加して

私は過日、都内の某大学キャンパス内で行なわれたO教授による講演に参加してきました。タイトルは「超常現象の科学と非科学」でした。内部構成は超常現象の類型分けの第一部と、それらのうちであり得ないという現象を物理学の基本原理により否定説明するのが第二部、そしてO教授にしては珍しく宗教について少し触れたのが第三部でした。この第三部は昨年のオウム事件が影響してのコメントだったようです。

第一部の類型分けでは、ミステリーサークルや火の玉等のプラズマ現象を自発的な超常現象としてこれはあり得ると述べ、他方、エネルギー伝達型の誘導的な超常現象（これらの中にはスプーン曲げや念写等が含まれますが）は絶対にあり得ないとして、しかし情報伝達型の誘導的な超常現象（これらの中には気功師による治療や黒魔術等があります）は微妙なところで、自己暗示作用としてはあり得るだろうと述べていました。

そして第二部の基本原理の解説の部分では、サイババを擁護して「理性の

ゆらぎ」を著したA理学博士の話題を持ち出しました。A博士は東大大学院理学研究科で量子論のシュレディンガー方程式を用いた論文で学位を受けた方なのですが、理性がゆらいだと称してシュレディンガー方程式を否定するならば、その基となるハミルトン関数、ひいてはエネルギー保存則という絶対不変の物理法則に反し、否定することになるのだからと、O教授は東大理学部会にA博士の学位を返上するよう抗議を申請したそうです。しかし理学部会では教授6人全員の同意がなければ学位を取り消すことはできず、そのうちの一人が亡くなっていて、どうにもならないという返事を受けるところまでO教授はA博士を追い詰めていたそうです。この話を聞いて私はO教授は怖い人だなと思いました。

ところで実はO教授の否定する超常現象の中には、いわゆるテレパシー等も含まれているのですが、私はこれらの問題は次元に関する問題だろうと思えます。私も講演の質疑応答で次元について質問したところ、O教授は数学での高次元あるいは無次元は全てパーシャルの（仮の）ものであって、それらを現実問題として扱うためには、いったん3次元量に焼き直す必要があると答えられました。

私はある数学雑誌で、数学者は多次元の様子を考えるとときにイメージを浮かべるのだが、それはまさに実在の問

題として扱う、という言葉を読んでいたので、そうした質問をしたのでした。実際のところ、例えばテレパシーがあり得るとする理論を探すことは、結局、多次元領域の問題だろうと思えます。残る必要なのは、その多次元座標軸が対応する要素を見つけることです。4次元なら時間が対応します。数学での多次元の座標軸に何らかの要素を対応させれば、その次元は実在のものとなり、物理学で扱うべき対象となるのです。

O教授はまた来年もティーチインを行なうと述べましたが、私も懲りずに参加する予定ですので、続きはまた来年レポートしたいと思います。

光や色の考察からの心の問題

太陽の光は分光すると赤色が波長750〜620nm（リナノメートル。1ナノは10のマイナスイキ乗倍）

青色が波長500〜445nmとなっていて、私達は目に入る光の波長の違いを色の違いとして感じています。

しかし、私達がある色を感じ取るのは、その波長の光を受けたときに限られるわけではありません。色は光の特定の波長分布に対応しているのではなく、異なる波長分布の光を同じ色として感じているのであって、色は人間の知覚の問題と切り離して考えることはできません。そして光の3原色から全ての

色が決まることは、視神経が3種類ありと考えることで説明がつかず。

この3種類の視神経が各波長の光から受ける刺激の強さは実験的に分かっている、ある光が目に入ると、これらの視神経が光のスペクトルに応じた強さで興奮し、私達はそれを色として感じるようになります。目の網膜の視細胞のうち、約700万個が色を識別するはたらきの3種類のすい状体であり、それぞれ赤、緑、青の波長に光の吸収の極大をもつ感光色素を含むことが知られています。

★ここまでは、光や色に関する物理科学的な過程を考察してきたのですが、しかしそこにはまだ解決されていない問題が残されたままにあります。

それは例えば、波長700nmの光が目の網膜の視細胞・視神経のすい状体に吸収され、その視神経が光のスペクトルに応じて刺激を受けたとしても、私達はどのようにその情報を赤色として感じるのかということです。今までの科学は、認知科学者チャルマースの言う「やさしい問題」の説明に取り組みできませんでした。ここで言う「やさしい問題」とは、例えば脳はどのようにして多くの異なる発生源からの情報を統合し、この情報を行動の制御にどう使うのだろうか等、ということがあります。これらの問題は意識に関係しているのですが、全ては認知システムの主観的な機構に関する事柄であって、

認知科学と神経科学の研究が進めば、これらの疑問の答えはやがて得られるようになると考えられています。

他方、「むずかしい問題」とは、脳内の物理的な過程がどのようにして主観的な経験を生み出すかという疑問のことです。これについて神経生物学者クリックとコッホは、意識とは大脳皮質のニューロンの発火が40ヘルツで共鳴することによって引き起こされる現象ではないかと述べています。彼らは単一物として知覚される物体の異なる属性（色や形）は脳の異なる部位で処理され、それぞれの部位のニューロンが同期した振動をすると一貫性のある全体像ができあがると主張します。確かにこの説は、情報が脳の中でどのように統合されるかという、やさしい問題の解明にはなっていますが、それではなぜ、同期的な振動が視角的経験を生じさせるのかについては何も答えではないのです。

物理学では、例えば空間と時間、質量と電荷はもつと簡単なものに分解できないために、特に基本的な特徴であるときとみなされています。これらはいずれも小さい要素に分解できないにもかかわらず、基礎的な法則を用いた理論によって互いに関連づけられていて、こうした特徴と法則が大変複雑な現象を説明します。しかし、もし意識の存在が物理の法則からは導けないとしたら、その物理の理論は真に全ての現象を説

明する理論とは言えず、最終的な理論は現状の物理学の体系にはない、付加的な基本要素を含むことが要求されることになるでしょう。

チャルマースは、意識とはそれ以上もつと基礎的な要素に分解することのできない基本的な特徴である、と述べています。そして彼は、意識を基本単位とする新たな基本法則を考えるべきだと主張し、物理学者達が目指す森羅万象の理論は、意識の法則をも含んだものであるべきだろうとしています。このようにして私達はいつの日にか、心に関する最大の謎を解くことができようになることでしょう。

カオスと常識

現代では、物事を一意的な決定論によつて捉えることを逃れる理論が用いられるようになってきたため、私達はカオスという言葉をよく耳にするようになっていきます。この現在のカオスの視点は、ある初期条件の小さな差異の後の結果として得られる増幅により、決定論と確立論を融合するような立場にあると言えます。

カオスの元々の原義は「混沌」であり、それは秩序と調和をもつ世界であるコスモスに対比されるものでしたが、カオスの運動の中から秩序的なものを取り出すことも出来るので、カオスとは乱れと秩序の両方を含んでいると考

えるべきでしょう。実際、カオスという現象のとらえ方を知らなかったときには単なるノイズとして処理されていたデータを、カオスという視点の網の目を通すことによって、そこから何らかの法則性が見出されたということもあるようです。このように、物事の捉え方の視点を変えて思考の網の目をかぶせてみる、という方法を知っておくことは、とても大切な考え方だと思います。

かつてライプニッツは、 $2+2=4$ という全くの常識と思われる算術を演算の定義を仮定することによって、再び厳密な理論として証明しようと思われました。

このライプニッツの行なった行為は、前提となるものを他の言葉で言い換えにすぎないトートロジー（反復）的な行為であり、本来の意味での証明ではありませんでしたが、彼が行なったように、どのように計算してみても正しい常識、あるいは正しい法則として受け入れられている事柄に対してもあってその常識をぶち割ってみて、その常識や法則が成り立っている内部構造を知ろうとする試みは、物事を単に暗記するだけでそのことを理解したと思いがちな現代の人々にとっては、大いに注目すべきことではないかと思えます。そしてこの考え方は、例えば超常現象を解釈するに当たっても充分に参考になる方針であると思われれます。私

時間の向きによる宇宙

手に持ったコップを手から放せば、コップは地面に落ちて割れてしまふし、熱いコーヒーをそのまま放っておくといつのまにか冷たくなっています。

ここには明らかに過去から現在、未来へと時間の流れがありますが、熱いコーヒーが時間と共に冷めていくことは熱伝導現象です。

こうしたことから、どうやら時間の流れの謎を考えるにあたっては、熱力学的な考察が重要なことがわかるのですが、その結果の一つとして時間の非対称性を記述する法則として有名な、「エントロピー増大の法則」が導かれます。

この法則はよく知られている割には誤解も多くあり、例えば人間の文明が進むとエントロピーが増大すると述べる方もいますが、それは誤りです。なぜなら進化とは情報量の増大であつて、つまりはエントロピーの減少ということになるからです。

こういう誤りを除いて考えると、熱力学的にはエントロピー増大の法則によつて時間の向きが保証されているのですが、例えば光の運動を考えてみると、光は過去から未来に向けて伝わることもできれば、未来から過去に向

て伝わることもできます。実際、光の運動を表わすマクスウェル方程式は時間に関して対称であり、どちらも可能なのです。

この時間の対称は、マクスウェル方程式に代表される電磁気学のみならず、ボーアやシュレディンガー、ハイゼンベルグらによる量子力学の波動方程式においても現われる現象です。

それならば、物理法則は過去と未来に関して対称であるといえるでしょうか。過去と未来が対称ということとは、基礎方程式に現われる時間要素 t を負の値($-t$)に置き換えても方程式の形が変わらないことをあらわします。

しかしミクロの世界においては、時間の非対称性を示すK中間子という素粒子が見つかっていて、この素粒子は時間の経過と共に他の素粒子に崩壊していきます。この崩壊反応が時間対称なら、ただ一通りにしか崩壊していかないはずですが、10億分の1の程度だけ、別の崩壊パターンが現われることが知られています。ただし、この現象は確率的に言えば非常に小さく、したがってこの場合の時間対称性の破れはミクロのスケールでしかないのですから、例えば微視的な時間の向きとも呼ぶことにしたとしても、宇宙論的にはこの微視的時間の向きの現象は極めて重要で、つきつめると物質がなぜ存在するのかという、科学や哲学における根本的な問題に関わってくることに

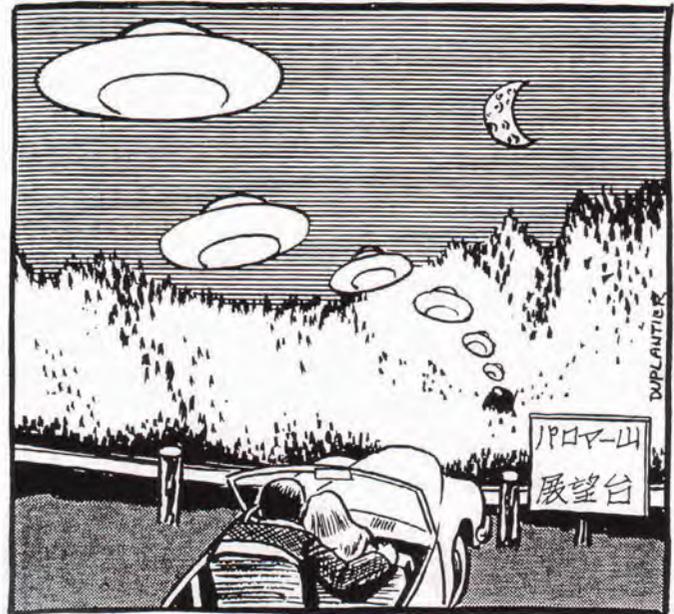
なるのです。

ただし、現代の科学者らの結論によれば、反物質というものが存在し、微視的時間の向きがなければ物質と反物質が等しく存在して、それらが互いに出会って消滅してしまい、後には何らの物質さえも存在しない宇宙だけが残ってしまうことになるそうです。

化学の限界と物理学の可能性

一般にあらゆる科学系の学問の中でも、とりわけ物理学はその性質として、他の学問の基礎的土台となるべく研究される、非生物学的な対象を取り扱うものだと言えそうですが、近年では生物学も分子レベルでの研究が可能になってきたため、かつては独立した分野と考えられていた化学や生物学なども、現在では物理学の範疇にあるとよさそうにも思われます。

しかし、元来、物理学が扱う現象の主たるものは、時間と空間からなる4次元連続体の中で生じる現象の考察であったはずであり、最近では先に述べた理由から、脳科学や生物物理学などの学際分野も確立されてきてはいますが、4次元連続体を考える時点において、医学や化学などの学問はもはや現象を捉える手法をなくしてしまうことになりました。なぜなら、量子力学の運動方程式より、分子化合物が存在できるのは3次元空間においてのみ、とい



あたしたちは、どこへ行っても誰かに見られているわ。
2人ざりになる場所は、ないじゃないの。

う見解が得られているからであり、ここにおいて私には、現代化学の限界が見えてきたように思われます。

しかしながら他方では物理学は、現在もやはり4次元連続体(の中の現象)をとり扱う分野であり、また、歴史をさかのぼれば、例えばニュートンの時代には、物理学と数学とはほぼ同等な学問として接近していたはずであり、さらに近年でも物理学の超ヒモ理論などにおいては数学の多次元の理

論(例えば多様体など)と大きく影響を互いに及ぼし合っているようで、再び数学に物理学の理論が融合される(乗せられる)時代がやってきたように思われます。

私は、このように物理学が数学に、その道具としてではなく考え方自体について接近してきた今こそ、物理学が新たな分野を生み出し、その面で飛躍的に発展していく可能性が見えてくるように思われなりません。

UFO目撃のメッカ ニューメキシコ州

New Mexico—A Mecca For UFO Sightings
by Hachiro Kubota

久保田 八郎

戦後、世界的にUFO問題が広まったが、その嚆矢（きやくし）となったのがアメリカのニューメキシコ州であることは案外知られていない。つまりUFOはまずニューメキシコ州に殺到して人々の目を驚かせたのである。もちろんこの土地以外にも世界各地でUFOは出現し続けたのだが、ニューメキシコ州だけは突出して目撃回数が多かったのだ。なぜか？ それは戦後アメリカが原子爆弾の実験開発を実にこの州で行なったからで、それを異星人が観察調査に来たからだと考えられるのである。例の有名なロスウェル事件の軍基地、本号掲載のホワイトサンズ実験場、最初に原爆を作ったロスアラモス等の物騒な場所が目白押しに位置していたのだ。

原爆開発の地

ここでまずニューメキシコ州について概観することしよう。この州はアメリカ合衆国の南部に位置する砂漠地帯の多い南国である。ロッキー山脈の南側に接する州の土地の八五パーセントは標高二二〇〇メートル以上の高地で、昔からインディアンのアペロ、ナバホや白人相手に勇敢な戦争をやったアパッチなどが住んでいた。もとはメキシコの土地であったのだが、アメリカとの戦争でメキシコが敗北して州北部の大半を取られてしまった。後に州南部もアメリカが買い取って一九一二年に正式にアメリカ領となった。州都は州北部にあるサンタフェ。そのすぐ北西にロスアラモスが位置する。このロスアラモス原子力研究所は最初の原爆を開発して、南方の砂漠地帯のホワイトサンズ実験場で一九四五年七月一六日に爆発を成功させた。そして翌月の八月六日に広島へ投下したのである。

一方、ニューメキシコ州の若者たちは徴兵されて多くはフィリピン戦線に投入され、日本軍の捕虜となつて有名なパターンの「死の行進」を強制されたあげく多数の死者を出したという。どつちもどつちだ。

は実在した人物で、本名はウィリアム・ボニー。ニューヨークからニューメキシコ州へ乗り込んだ流れ者で、拳銃片手に暴れ回った。

大戦後、ソ連との冷戦時代は軍事やハイテク、宇宙開発関係の産業を促進した。だからこの州内には研究所や実験場が多かったのだ。

ホワイトサンズにおけるダニエル・フライの不思議な体験については本号の記事をお読み頂くとして、実はこの実験場付近で、あるとき飛行機の搭乗員が基地から打ち上げた観測気球を追跡していた。そのとき搭乗員たちは二機の円盤型UFOが地平線のすぐ上から飛来して、三万メートル近くの高度から気球を中心に旋回して急速に飛び去るのを見たのである。これは四八〜九年頃だったと思われる。

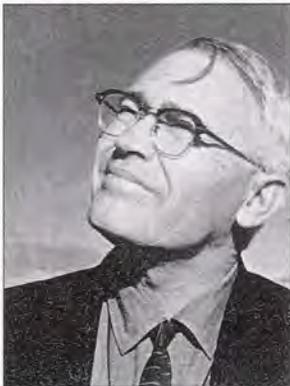
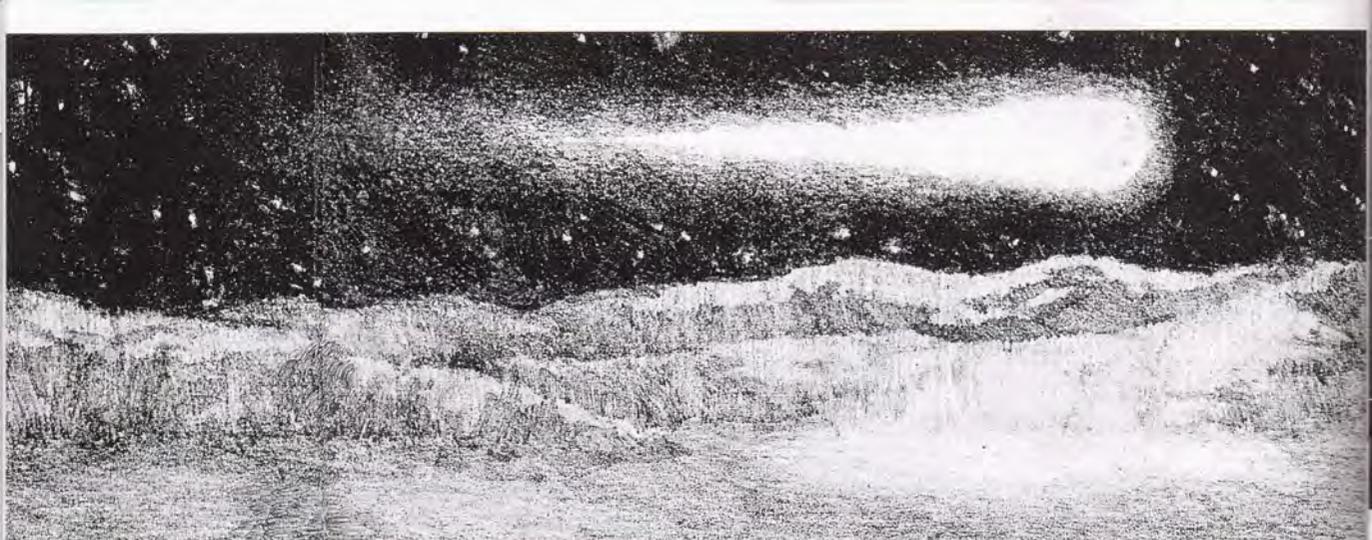
この気球を回収してみると裂けていた。この件については後にエドワード・ルッペルト大尉が調査して未確認飛行物体の線を出している。彼は一九五一年から五年にかけて米空軍のUFO調査機関であるプロジェクト・ブルーブックの隊長であった。また彼はジョージ・アダムスキーをも調査して、その体験が事実に基づくことを示唆しているが、表面的には異星人来訪説を否定するような態度を見せていた。これは空軍としての体面上やむを得ない処置だったと思われる。今でもそうだが、当時から米空軍はUFO否定論の御問屋だったのだ。

トンボー博士の目撃

さて、ニューメキシコ州における最大のUFO目撃事件は、冥王星を発見した大天文学者クライド・トンボー博士の体験である。

四九年八月のある夜、博士はラスクルーセスの自宅裏庭で夜空を横切る不思議な光体群を夫人とともに目撃した。それはまるで電車の窓のような横に長い四角な光体が七〜八个横一列に並んで無音で飛ぶ光景だった。この体験を博士は堂々と発表して天文学界の度肝を抜いたのである。天文学者でUFOを見た人はいないと言うUFO否定論者をよく見かけるけれども、この記事を読んだらどんな顔をするだろうか。実は天文学者がUFOなるものを否定するのは、「目撃した」または「信ずる」と公言しようものなら大学や所属機関から追い出されるので、それを警戒して黙秘しているのだ。

このトンボー博士に質問の書簡を出した日本人がいた。それは昔、筆者と親しかった京大工学部出のUFO研究者M氏で、彼は博士からの英文の返書を筆者に見せてくれたが、それはまことに親切明快な内容で物体群の図まで書き添えてあった。筆者は目撃内容よりもむしろ極東の見知らぬ日本人の青年に丁寧な返事を出す博士の温かい人柄に打たれた記憶がある。写真を見ても温顔



▲クライド・トンボー博士

▲ラ・パス博士と夫人がニューメキシコ州で夜間に目撃した緑の火球のイラスト。夫人が描いた絵をさらに博士が手直して仕上げたもの。ラ・パス博士によれば、目撃した火球群はあまりに大きくて、その飛行コースも平らすぎるし、色の緑も濃厚すぎるので、通常の流星ではないという。

(記事と写真はロイス・
ティマン、久保田八郎訳
「宇宙よりの来訪者」
（字）より引用。こ
の書は絶版）



▲リンカーン・ラ・パス博士

そのものだ。

ラ・パス博士もUFOを見た

当時、ニューメキシコ州には緑色に輝く不気味な球体が頻繁に出現して話題になっていた。そこで流星の世界的権威者であるリンカーン・ラ・パス博士と空軍の情報将校チームはこの現象を徹底的に調査したのである。そして博士と将校たちの多くは実際にこの緑の火球を目撃し、これは流星ではないと結論づけたのだ。

博士の場合は夫人と一緒に見ており、絵のうまい夫人が描いたイラストを博士が手直したものがここに掲載されている。

ラ・パス博士によれば、火球群はあまりにも大きくて、低空で飛ぶそのコースも平らであり、色の緑も濃厚すぎるので、通常の流星ではないという。明らかにUFOと言えるだろう。

UFOで緑色の光を放つものを筆者も見ることがある。それは静岡県富士山山ふもと、朝霧高原であった。ここへ二人の仲間と共に観測に行ったのはかれこれ十数年以上前である。現在朝霧高原は付近から音楽やその他の騒音が響いてテレビシー応用の観測には全くダメな場所になっているが、当時はまだ静寂な草原だった。

防寒服のまま草っ原に仰向けになって暗い夜空を見ながらテレビシーで呼びか

けていたら、突然、筆者の頭の後ろの方から天頂付近を緑の光体がスーッと前方へ一直線にゆつくりと無音で飛行するのを見た。一同で歓声をあげて見ているうちに、彼方へ消えた。

これは流星ではない。緑色の一種の蛍光を放つ物体で、流星のような急スピードではなく、網膜の残像としての航跡を残さない物体だった。

ともあれ、ニューメキシコ州のUFO出現騒動は今も続いているかどうかは知らぬが、初期の原爆実験と密接な関係があったことは間違いない。そういえば、ソ連のチエルノブイリ原子力発電所の爆発事故の際も、上空にUFO群が見えたという情報もある。異星人たちは地球人の危険な行動を見守っているのだろう。

いったいにアメリカ合衆国は無数の広漠たる砂漠や不毛地帯が展開する途方もない大国であるから、異星人が宇宙船で出現、着陸するのにきわめて好都合なのだろう。

最近の情報によれば中国にもかなりの数のUFO目撃、着陸、コンタクト事件が発生しているということで、筆者のもとに届いている北京のUFO研究会の会報にも多くの凄惨事件が報じられているし、中国のUFO研究団体の数にも驚かされる。異星人とのコンタクトはアダムスキーの創作どころか類似の事実が広大な国々で無数に展開しているのだ！

日本GAP

テレビ朝日 海外向け番組に出演



日本GAPは近來たびたびテレビ番組に出演しているが、去る9月1日の深夜番組の「Click on Japan」と題するテレビ朝日の海外向け英語番組の中でUFO問題を取り上げて、日本GAPを取材し、これはアジア一帯、アメリカ、カナダへ放映された。まじめに編集された内容で国内で見た人達のあいだでも好評を博した。日本GAPからは会長・久保田八郎と本部役員幹事・加藤純一の2人が出演して、日本GAPの活動状況やUFO問題、特にアダムスキーの体験に関して沢山の資料を見せながら説明した。





▲筆者が目撃した会場の空間を飛ぶ白い物体を本人の描いた図を参考にして編者が白ペンで航跡を描いたもの。

総会会場に ●不思議な● 物体が出現

A Mysterious Object Appears
At The General Assembly

by Hachiro Sasaki

佐々木八郎

先日の総会のご成功おめでとうございます。とても宇宙的なご講演で、私の気持ちも高揚しました。

その総会の時に、不思議とも思えることがありました。

久保田先生が、

「宇宙の意識との一体感を持ち続けること」と

という話をされたときのことです。時刻は一時五八分。

突然、右前方の空間から、白っぽいものが現われました。ちよつとびっくりして、それをじつと見つめていました。

直径一センチメートルくらいの白っぽい小さな球体状に見えるものが、演壇に向かって、右から左へと、海洋の波のようにゆるやかに飛んで行きました。

座席で言うと、前から三分の二くらいのところまで、みなさんの頭上の一〇

センチメートルくらいのところを飛んでいました。時間にして五秒弱です。

私は、一番後ろの席に座っていました。ほとんどだれもその物体を見ていないようでした。後で、二、三人の人に聞いてみましたが、「見ていません」と言いました。しかし、私は、自分の目ではつきりと見ましたし、ウソをついているわけでもありません。妄想でも錯覚でもありません。

他の人（私の近くにいた人）が見ていないというのは、その物体が飛んだ空間に目の焦点を当ててみていたのではなく、講演されている久保田先生に目の焦点を当てて見ていたからだと思います。

私は超小型のスキヤニングディスクだと思えます。

このことは、日本GAPがスペース・ピープルのみなさんに、注目されているからだと思えますし、とても光栄なことだと思います。改めて、久保田先生のこれまでの宇宙的な壮大な活動があったからだと思えます。

スペース・ピープルに祝福されている日本GAP。その一会員として、私もこれからますますしつかりやっつけようと思えます。

久保田先生、これからもご指導のほどを、よろしくお願い申し上げます。では失礼します。

一九九七年・九・一八

総会出席者 一五五名
大夕食会 一〇八名

本年度の日本GAP総会は予告どおり九月一四日に都内港区東京タワー前の機械振興会館地下二階の大ホールで午後一時より開催された。今年もあわや関東に台風直撃か?と当日まで予断を許さない状況の中、我々の想いが通じたのか、終日曇りではあったが、交通に影響が出るような悪天候にはならず、無事に皆様をお迎えできた。

今回は数年ぶりに日本GAP会長・久保田八郎先生にご登場頂き、「GAP、UFO、宇宙哲学」と題する普段はなかなかお聞きすることの出来ない素晴らしいお話を約一時間半にわたって拝聴し、質疑応答も行なわれた。

今年は副題にもあるとおり、G・アダムスキー氏が金星人オゾン氏とデザートセンターの砂漠地帯で劇的なコンタクトをしてから四五年になる。ご存じのとおり久保田先生はアダムスキー氏の存命中から世界GAP網の一翼として、アダムスキー氏の要請により、日本総代理人として日本GAPを設立以来、三六年もの長きにわたり数々の困難を乗り越えて我々GAP会員を指導してこられた方である。

GAPの歴史そのものでいらっしゃる久保田先生のご講演は、まさに我々が望んでやまなかつたUFOとアダムスキー問題の真髓であった。この一瞬を待ちに待った会員の多くはそれぞれ満足げな様子で、会場は終始宇宙的な雰囲気であふれていた。また、久保田先生はUFOや宇宙問題以外にもあらゆる面でその博識ぶりを発揮された。

これにより、今回の質疑応答はあらかじめ質問を受けるやり方ではなく、その場で挙手を願い、先生にご回答を頂くというセミナースタイルで進行的に試みたが、いかがだったろうか。

また、今年「超能力コンテスト」と題して、本部役員の大藤昭則氏による全員参加のテレビ番組の送受信が行なわれた。久保田先生の宇宙的なお話の影響からか、コンテストの名にふさわしく、百点満点の方がなんと三名もいらっしやう。これは前代未聞の高得点であった。そこでさらに決勝戦を二度行なって最後に優勝したのは練馬区の山越晴雄氏であった。見事な賞品(山中塗の蒔絵付き時計)は先生の手から渡された。宇宙哲学の実践者ならば当然というべきだろうが、とにかく

くGAP会員のテレビ能力のレベルの高さを実証した一幕だったことは間違いない。

続いてこれも珍しい企画のビデオ上映。「躍進する日本GAP」と題する約一時間の映像は、アダムスキー氏のコンタクトが行なわれたデザートセンターの現地や、円盤着陸地点等を詳細に記録した貴重な映像に始まり、米ワシントン市で九五年九月に開催されたアダムスキー大会における久保田先生の英語による珍しい講演の模様や翌日ニューヨークで撮影されたUFOの映像が続いた。後半はGAP活動をまじめに取り上げたパーフェクトTVやテレビ朝日の海外向け番組に先生やその他の人たちが出演した場面等が映写された。こうして大盛況のうちに総会は終了した。

夜は恒例の大夕食会を六階のホールで盛大に開催。大阪支部代表・平塚和義氏の乾杯音頭により開始。予約者はるかに上回る人数が熱気の渦を巻き起こし、笑声が絶えない和気あいあいたる雰囲気の中で、再会を祝した二時間はあっという間に過ぎていった。終了後は新橋駅前の「天狗」で二次会を開催。これも予約者以上の人数で

溢れ、超満員の店内はまるでGAPの貸切り状態。最後の最後まで盛り上がった。一部の方々はさらに三次会のカラオケへ行き親睦を深めたという。

翌日の観光とUFO観測会はいにくの雨で、予定していた葛西臨海公園行きはキャンセルとなり、希望者のみで新宿のタイムズスクエアへ行き、二時頃まで楽しんだ。この観光には久保田先生も参加されていたが、驚くべきは今年七三歳とは思えないほどの超人的な体力と精神力を発揮されたことである。聞けば先生はその夜も自宅でUFO誌本号の編集仕事を行なったという。これは久保田先生がアダムスキー哲学の真価をみずから実践し証明された素晴らしいお姿である。

最後に全国からご参加頂きました会員の皆様にごの場をかりて御礼を申し上げますとともに、本年度の総会の報告とさせていただきます。

本部役員代表

加藤純一

講演では予定の半分も話せませんでした。皆様が熱心に聞いて下さって心から感謝致します。今後はもっとゆっくり話すように心がけます。

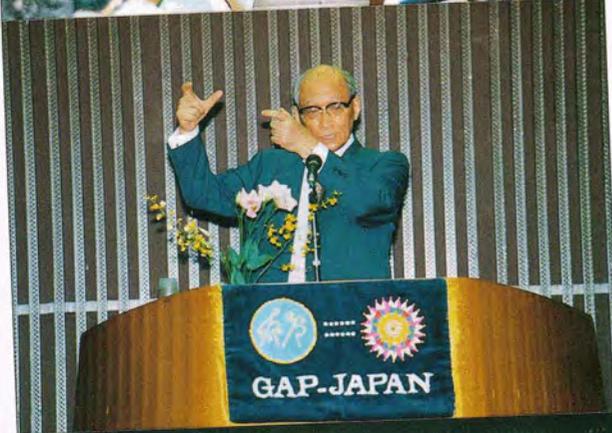
会長

久保田八郎

本年度日本GAP総会—大盛況!

1997 GAP-Japan General Assembly A Great Success!

by Junichi Kato



▲写真左上から司会者篠芳史、副司会者会田裕子、加藤純一役員代表、久保田会長、遠藤昭則役員。
 ▲写真右上から3番目中央が久保田会長、その右は韓国のカン・ビユン・キュー博士（日本GAP
 会員）、その右の横顔は橋本健博士。会長の左は平塚和義大阪支部代表。 撮影/西川 太

宇宙の法則のもつて生きるスペース・ブリンザーズ (2)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載19〉

万物を生かす根源とは

イエスは、「私は、自分自身では、一人の人間として、一つの心としては、何も行なえない。私が行なうことはすべて父が私を通じて行なっているのだ」と語ることで、このことをうまく説明しました。彼はそれを「父」と呼びましたが、それはまさしく「父」にほかなりません。我々は、「父」という言葉からそれ自身の子孫を作るものを連想します。しかし神は人だけを作ったわけではありませんでした。「彼」は人を作る前に、その他のあらゆるものを作りました。人が生きていくためには、それらが必要であったからです。ですから「彼」は万物の「父」なのです。

「彼」がいなかったならば、それらがこの世に出現することはありませんでした。結局、「彼」はこの世界全体の「父」なのです。鉱物や何やらを含む、我々が知るあらゆるものの「父」なのです。

そして、我々人間もまた、我々が作ったあらゆるもの、椅子や衣類、あるいは髪とかし方その他の様々な習慣に至るあらゆるものの父にほかなりません。我々は自分たちの子供の父であるだけではないのです。我々は、我々が作り出した便利なものから不便なもの、喜びから悲しみに至る、あらゆるものの父であるのです。それらのすべては我々人間によって創造されました。我々はそれらを自分たち自身にもたしたのである。ですから我々はそれらの父でもあるのです。

こと創造ということに関して言えば、創造主と人間の間にはなんの違いもありません。どちらも自分自身と似たものを創造したのみならず、自分と似たものたちに奉仕する、他の様なものを創造しているのです。

万物を尊敬すること

問 「コスモロジー（宇宙論）」という言葉がありますか？

ア ええ、そのとおりです。それが、

あえて言えば宇宙的な宗教です。純粹に科学的な宗教です。スペース・ブリンザーはそれを信じているために、いかなる心靈主義にも傾くことがありません。彼らは我々が持っているような宗教は持っていないし、心靈主義や神秘主義といったものも彼らとは無縁の存在です。そしてそのために彼らの社会内ではいかなる分離も存在していません。彼らの社会は、一体化した一つの単位として機能しています。そしてそこではすべての個人が尊敬されています。

そして実は、それは我々が太古の昔に授かったレッスンでもありません。聖書に出てくるソロモン王の物語は、皆さんもよくご存知のはずです。ここにおられる皆さんの中に、フリーメーソンのメンバーがおられるかどうかは知りませんが、とにかく例の寺院が完成したときに、ソロモン王はその寺院の建設に最も貢献した人物を厚くもてなすつもりだと宣言しました。そこで技術者や芸術家たちは彼らは当時、とても良いお金を取っていたわけですがその状況にふさわしい出で立ちをすべく

豪華な衣装を買い求めました。要するに彼らは、自分たちこそが最も榮譽ある席、すなわち王の隣の席に座るふさわしい人間であると考えたわけです。

さて、彼らがその席に自分が召されるのではないかという大きな期待とともに待っていると、そこに、焼けこげた前掛けをしめ、すずだらけの顔と汚れきった手をした鍛冶屋が入ってきました。その鍛冶屋は王の隣の最も榮譽ある席につかつかと近寄っていきます。そして、そこにさつさと腰を下ろしてしまいました。

それを見た人々は鍛冶屋に罵声を浴びせ始めました。呆気にとられていたソロモン王がその鍛冶屋にたずねました。「おまえは、どんな権利があつて、この最も名譽ある席に着いたのか」

鍛冶屋は立ち上がり、最終的に寺院を完成させた技術者や芸術家たちにむかって話し始めました。

「皆さんのこゝでは、誰が作ったのですか？」

「おまえだ」

「皆さんのコンパスは誰が作りまし

た？」

「おまえだ」

「では、おたずねしますが、皆さんは、それらの道具なしでこの寺院を建てられたでしょうか？ 建てられませんでしたか？ ということは、私が一番重要な仕事をしたことになりませう」

鍛冶屋はそう言つて悠々と座りました。

ところで、ミミズもまた最大の榮譽を授かつてしかるべきものだと言えます。彼らがいなければ我々人間が今ここに居ることはできなかつたはずで、言いかえるなら、一般に考えられている最低のものから最高のものに至るすべてのものが、等しく最高の榮譽を授けられてしかるべきなのです。他の惑星ではその認識がしっかりと定着しています。でも我々はこのことについて考えようとさえしていません。

あの英知、神自身の英知がミミズを通じて流れているのです。それは我々人間を通じて、野菜を通じて、バラを通じて、そしてその他のあらゆるものを通じても流れているのです。しかし我々は、それを認識していません。我々は最も肝心なことを見落としているのです。万物を治めるべきものでありながらです。

問 それは輪廻転生（生まれかわり）とも関連したことなのですか？

ア と言うか、すべてが巡回しつづけているわけです。あらゆるものが

——そうですね——こう言う方がいいかも知れません。もしある人間が、一生を通じて、ほんの少しだけ知性的に進歩したとしましょう。生まれてから死ぬまでの間にです。その場合、彼の肉体が土に戻ると、その土は、それによつて利益を得ることになります。なぜならば、その肉体は肉体を通じて表現された想念の数々によつて質が高められているからです。土はその肉体を再び受け取り、自分と同化するわけです。ということは、それによつて、土もまた、それ自身の質が高まることになるのです。

皆さんは、永遠に進歩をつづけます。なぜなら永遠につづく時間の中で、皆さんが学ぶ必要がなくなるときは永遠に来ないからです。

輪廻転生は実在する

問 実を言うと私は一般に言われている輪廻転生（生まれかわり）を、どうしても受け入れられないんです。

ア 一般に言われている輪廻転生をあなたが受け入れられないのは当然のことです。この旅行中に私は同じような質問を何度か受けましたが、彼らもまた、ヒンドゥー教徒たちが信じているような輪廻転生の理論、つまり人間がレタスに戻るとか、次は別の生き物に受け入れられないと言っていました。

はつきり言ひましよう。皆さんの中の誰かを傷つけることになるかも知れませんが、まあ大丈夫でしょう。

いづれにしても我々はこの問題を正しく見つめなくてはなりません。この世界での最初の殺人は、信心深い人々によつてなされました。それは誰か殺して神に捧げる、つまり生け贄にするという行為でした。その後、極めて自然に我々は互いに殺し合うことは良くないことだと考えるようになりました。そこで成長したわけです。

そこで我々は、正しく生きない人間は地獄に落ち、まるでステーキのように火で焼かれるつづけるという教えを編み出しました。人々は当然のごとく、ステーキのようにジュージュー焼かれたくはありませんでした。そこで彼らは良い人間になろうと努めました。しかし、そう努めれば努めるほど彼らは悪くなりました（笑い）。そこで、ヒンドゥー哲学の教師たちは、「もしあなたが私たちの言うとおりに生きたら、次は生涯ではレタスかヘビになるだろう」と言つて脅したわけです（笑い）。

ただし自然は決して後戻りはしません。それはゆつくりと、しかし着実に確実に前進をつづけます。まあ、いづれにせよ、このようにして輪廻転生というものが教えられてきたわけです。

でも真の輪廻転生というものは、そうで、皆さんはそれを毎春見るこ

とができます。植物の中には、冬になると眠りにつくものがあります。冬の間も起きつづけている植物もあります。が、それ以外の植物は冬の間は死んだように眠っています。しかしその種の植物も、春になると再び生き生きと眠りから覚めます。新しい葉っぱや、新しいあらゆる物とともにです。

我々もそれと同じようにしているのです。（生まれかわつて）次々と新しい肉体を持つのです。我々は、おそらく自分の想念の状態をほんの少しでも向上させることができたならば、あるいは自分自身が何であるかの知識を学んだならば、そうすることができませう。なぜならば、皆さんが赤ちゃんと呼ぶ小さな肉体を創造するのと同じ英知が、皆さんの肉体を何度でも新しいものにしてくれるからです。でも心はそれを行なつてはくれません。心にはそれができないのです。「意識」は建設的ですが、心は破壊的であるからです。

人間は永遠に転生する

問 一つの生涯で充分だという考え方をどう評価されますか？

問 （別の質問者）一つの生涯では不十分だ、とても時間が足りないという主張もあります。

ア まず第一に、皆さんには、たっぷり時間がありません。皆さんが努力をつづける限り、あるいは一つの生涯

の中でその間に学び得ることの千分の一だけでも学んだとしたら、たとえそれだけでも、それによってあなたはよりハイレベルな次のステップに移動することが出来ます。でも何一つ学ぶこともなく、また、そのための努力もまったくしなかつたとしたら、それによってみなさんは、よどみ、停滞し、まもなく消滅することになるでしょう。

いずれにせよ、皆さんには、たっぷりと時間が与えられているのです。それは永遠の時間です。永遠は永遠です。ですから急ぐ必要などどこにもないのです。急いで多くのことを学ぼうとするよりも、一つの小さなことを確実に学んだほうが、はるかに良い結果が得られます。急いで学ぼうとすると、本当に大切なことを見過ごしてしまいがちです。その結果、後になってそれを探そうとしても見つけれられないということになってしまいかもしれません。そのとき皆さんは大きな謎とともに生きるばかりありません。

これはちょうど、大きなジグソーパズルを組み立てるようなものです。その大きな絵を完成させるには千個もの小片が必要かもしれません。それで、あるときみなさんはそのうちの一つを見て、どこにも当てはまりそうもないので、ポイと投げ捨ててしまいかもしれません。しかし、やがて他のすべての小片をしかるべきところにはめ込んだ後で、最後の一つが残っていないこ

とに気づきます。しかもそれは、それがないと全体の絵を理解するのが不可能といえるほどの、とても大切な小片かもしれないのです。ですから急がないことです。忍耐を忘れないことです。そうすれば皆さんは、いずれ必ずパズルを完成できます。

大部分の人間は、操り人形

問 ある人々は真実を知ろうとする強い願望を持っていますが、他の人々はそれをまったく持っていないように見えますが。

ア 忘れないでください。人類の九〇パーセントは操り人形同然なのです！ ご存じありませんでしたか？すでに皆さんはそのことを知っています！ 当然なのです。人形たちを動かすために皆さんが行なうべきことは、ちよつとしたマーチング・バンドを編成すればよいのです。そして、「我々はこれからこつちの方向に進進していきま

て同じように谷底に転落することになります。

問 それはどうしてなんでしようね？

ア 人々の多くは、すでに死んでい

るからです！ 知りませんでしたか？

人間は「心」だけで生きて

（笑）人類の九〇パーセントは、言いかえるなら、心に従って、いわば「心だけの生き物」として生きているのです。彼らは心で生きているだけです。我々の心という部分は、それ自体が生きているわけではありません。それ自体は、生命を持っていないのです。心はその生命を「意識」に依存しているのです。

たとえば、もし皆さんが遠隔透視力を持つていて、テレビなどなくても、はるか彼方にある物を、はっきりと見ることができたとしましょう。また遠隔聴覚で音楽も同じようにして聴くことができたとしましょう。あるいは未来予知能力によってまだ実っていない果物を味わうことができたり、まだ咲いていない花を見たり、その香りを嗅いだりできたこととしましょう。そのとき皆さんは超人的な心を持つているわけです。でも、もし皆さんが（本体である）「意識」をなくしてしまつたら、そんなものはなんの役にも立たなくなつてしまうのです。そのとき皆

さんは死人として横たわり、まもなく埋葬されることになります。

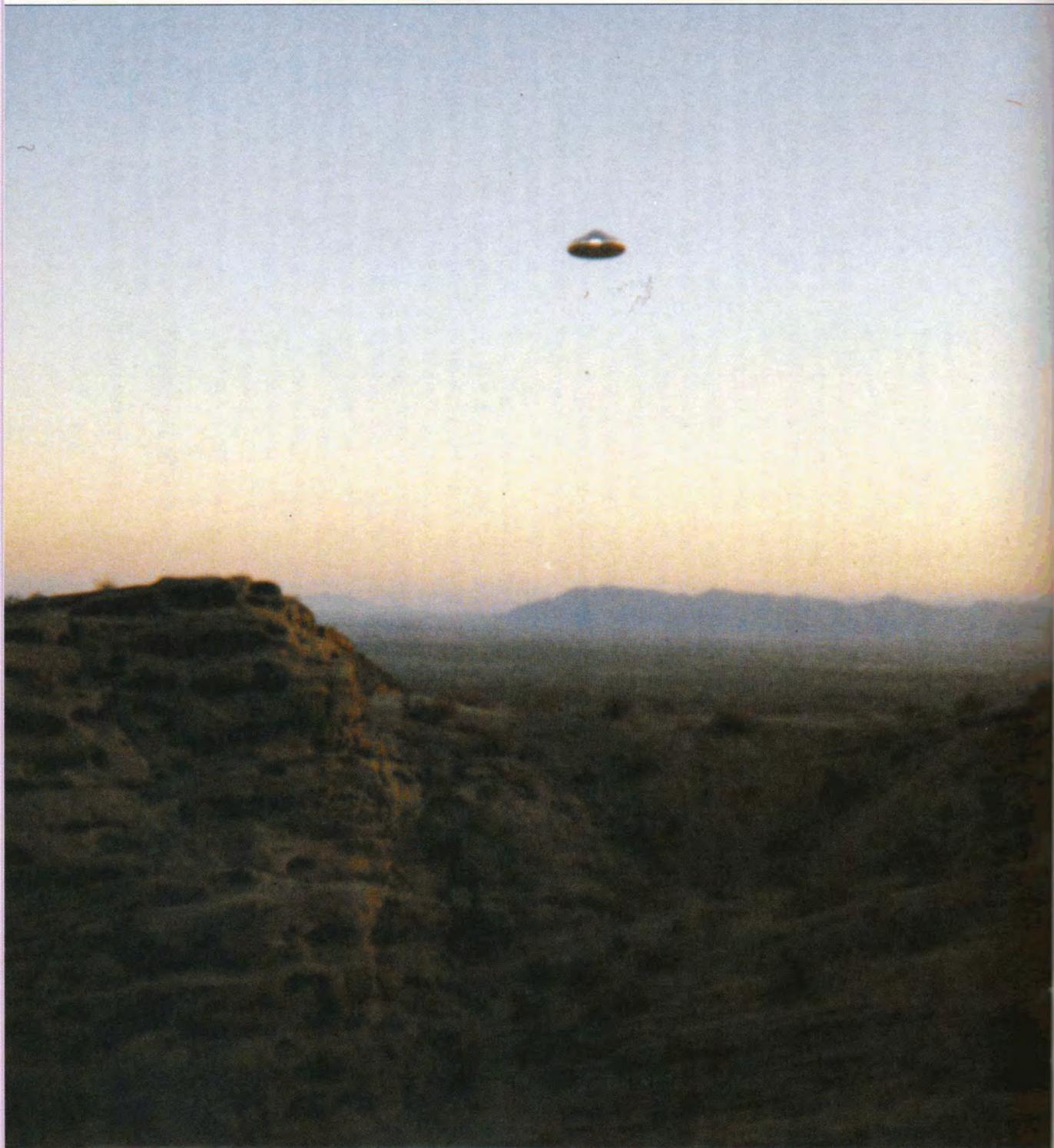
意識こそ人間の肉体

しかし一方で皆さんは「意識」を持つている限り、心やあらゆる肉体的感覚を失つてしまつたとしても生きつづけられます。たとえば、たとえ話すことができなくても、声を失つてしまつたとしても、皆さんは、何かを私のために書くことができます。そして私は、皆さんが書いたことを、皆さんの代わりに実行することができます。そうやって皆さんは極楽さえ作れるかもしれないのです。

「意識」は心から離れても生きることもできます。でも心は「意識」から離れては生きられません。

問 進歩しようとしていない人は、どのようにしたら、その静止状態を脱して前に進むことができるのでしょうか？

ア 静止？ そんなものがどこにあるんです？ あなたはそれを学校の教科書から学んだのですか？ そしてそれを鵜呑みにしたのですか？ さもないければ、静止というものが何であるのかを知らない誰かから教わつたに違いありません！ 誰かから教わつたにせよ、それをあなたに教えた人物はとんでもない誤解をしています。その人物の言う静止なるものは、彼には想像もつか



●カリフォルニア州のアダムスキー型UFO

1995年1月、米カリフォルニア州のアンザボレゴ砂漠で、バックバカー・スティーヴ・トムセンという男がこの砂漠地帯をハイキングしていたところ、前方の空中に美しい銀色の金属製物体が空中に停止しているのを発見。すぐにカメラで撮影したら物体は消えた。外形はアダムスキー型スカウトシップに似ている。

©日本GAP

いないほど、あるいは彼の心^{マインド}では感知できないほど、あるいは彼の心^{マインド}では感知できないほどのスピードで動きつづけている状態にほかなりません。静止などという状態は存在しないのです！どこにもです！

問 わかりました。静止のことは忘れてください。私がおたずねしたかったことは、現時点で進歩を志していない人々でも、いずれ進歩を果たすことは可能なのですか、ということなんです。

ア そのような人々も、どこかで目覚めることになるでしょう。なぜならば、「慈悲」として知られる法則が存在するからです。皆さんは、何度も何度も繰り返しチャンスを与えられます。もしその法則が存在しなければ、なによりもまず（生まれかわりによって）新しい肉体が次々と創造されることなどありえないはずですよ。

これは、イエスが明確に指摘していることでもあります。彼は「肉体を殺すものは恐るるに足らない。恐るべきは魂を殺すものである」と語っています。ただし、彼がその中で魂と言っているものは物質的な魂、つまり心です。たとえば皆さんが、心を自分自身として認識しています。皆さんは自分自身を「意識」としては認識していません。でも、心は、もしそれがいかなる進歩も果たさなければ、それを構成している元素群、つまり「本質」に

戻ることになります。

泥のボールのたとえ

我々はそのような人々を知っています。自分の心^{マインド}、あるいは記憶を失った人々をです。

次のように説明するといいかもありません。この椅子の上に水の滴をたらしたとしましょう。するとそれは下が平らで上が丸いドーム型になります。そこで、もしその水が我々の言葉を話せたとしたら、「僕を見てくれ。僕は個性を持つている。僕には平らな底と丸い頭があるんだ」と言うかもしれせん。そのとき皆さんはそれを否定できません。それは、そのとおりのものなのです。

さて、次にもしその水滴^{水滴}がそのままここに居つづけて、他のいかなる形ある物にもならなかったとしたら、それはまもなく蒸発して、その「本質」すなわち気体へと戻っていきます。そしてそれは水滴としてここに何度でも戻ってくるができます。

でも、ある水滴は落ちた場所に居つづけたたりしないで、転がり始めるかもしれません。それは転がりつづけていくうちに、それ自身の正体を徐々に失っていきます。チリやホコリやらを次々と身につけていくからです。そのようにしてやがて泥のボールになりま

さて、そこで我々はその泥のボールに言います。ちなみに今の我々は、まさにその泥のボールです。我々はそのボールにこう言います。

「君は、本当は今見えている姿ではない。一滴の水が君を作り上げているんだ」

するとその泥は自分自身を見て言います。

「水なんてどこにあるんだい？ どこにもないじゃないか」

我々もまた、それと同じ泥のボールです。そして、やはり同じように「水なんてどこにも見えないじゃないか。僕はただの泥のボールなのだ」と言いづづけているかもしれせん。

さて、今やそれは、明確な個性を持った泥のボールになりました。それは、転がっている間に様々なものを身につけました。それらのすべてが純粹できれいなものではありません。それは接触するあらゆるものを拾い上げてきました。そこでそれは言います。「僕はこのあたりで止まることにする。もう転がるのはやめた。もうここに居ることにしてしよう」

それはそこにしばらくとどまります。その外見すなわち泥のボールが自分で認識している自分自身の正体です。

するとやがて泥のボールは元のチリやホコリに戻るようになります。それを単なるチリやホコリでもないものにしていった水滴が蒸発してしまっただけから

です。その水滴もそこから消え去ったわけです。チリやホコリは一緒には行きませんでした。その結果、その泥のボールの正体は永遠に消滅してしまっただけです。

問 異議があります。待つてください！

ア もう一つの水滴も同じようにして泥のボールになります。ただしそのボールは探求を始めます。それは言います。「自分はこれだけのものではないはずだ。彼らは僕をただの泥のボールだと言っている。水たまりに映った僕の姿は確かに泥のボールだ。でも僕を作り上げている何かがあるはずだ」

その泥のボールはそんなことを考え始めました。つづいてそれは言います。「でも、それはいったい何だろう？ よし、このまま転がりつづけて、それを探してみよう」

そのボールは、水滴によって作られているために、水が大量にある場所に向かって転がっていく傾向を持っています。そして最終的に海へたどり着きます。

すると、そこでそれは、自分自身の正体、「形あるもの」としての正体ですが、それを一気に失うことになりました。泥のボールという「形あるもの」は、海の中にはいったとたんに崩壊します。そのときそれは海の水に加わります。それはもう誰の目にも水滴ではなくなっています。でもそれは間違い

なくそこにいるのです！

水滴としての確かな体験を経て、今やそれは自分自身を海の水と一体化させました。今やそれは海の一部となったのです。その肉体であつたあの泥のボールもさまざまな不純物を身につけていたものの、海に入ったとたん、一瞬にして浄化されました。なぜならば、その水があまりにも大量で澄み切っているために、不純なものは何一つその中にとどまれないからです。

大海との一体化が究極の目標

そのようにして結局、それらの双方がその「あらゆる生命の巨大な源」に合流したわけです。正体をしっかりと残してです。それらは自分自身を常に認識することができます。そして海の中で何かが起こるたびに、あの水滴はそれに関する知識を海全体と一緒に知覚できるのです。

だからイエスは「私と父は一つである」と言ったわけです。最初の泥のボールは、転がりつづけよう、探求しようとはしませんでした。しかし、二つ目の泥のボールは、自分をただの泥のボールだと認めたくありませんでした。あるいは自分をエゴの固まりだと認めたくありませんでした。エゴの固まりには、やがて乾燥してチリに戻る運命しか残されていません。そしてそれは、イエスが「肉体を殺すものは

恐るるに足らない。恐るべきは、魂を殺すものである」と言うことで教えようとした、もう一つのことでもあります。イエスがその中で述べた魂を殺すものとは、エゴにほかならないのです。皆さんの心がエゴで満ちているとき、皆さんの正体は、消滅する運命にあります。

ただし、我々が次の生涯に持ち越す人間の正体は、物質的、外見的なものではありません。たとえば私が次の生涯を金星で過ごすことになったとしましょう。そして皆さんが一〇年後、あるいは一〇カ月後に同じようにして金星に転生したとします。そのとき皆さんはたずねるかもしれません。「ジョージ・アダムスキーがどこにいるか、ご存じありませんか？」

でも、それで皆さんが得る回答はおそらくこうです。「ジョージ・アダムスキー？ いったい誰なんだい。そんな人間のことは聞いたこともないね。そんな者はどこにもいやしないよ」(笑い)

(訳注) 金星人は名前を持たない) でも、もし皆さんが私を、私の真の自己として認識していたとしたら、そのときは皆さんにとって私を探し出すことはとても簡単なはずですよ。

意識こそ永遠の実体

見えるものと見えないもの、あるいは

は原因と結果の双方が認識され、一つにされなくてはなりません。これは聖書でも明確に述べられていることです。子羊の結婚に関する記述はご存じですか？ 子羊つまり心は、子供のようになり、親と一つにならねばならないのです。そもそも肉体とその心を誕生させるもの、つまりそれらの親は「意識」に他なりません。そして心はそれ自身が活発に動き、生きつづけるためにも、日常の中で何を行なうためにも、常に「意識」に頼りつづけねばなりません。

その「意識」が皆さんを離れたとしたら、皆さんは死体になります。皆さんが自分自身を「意識」として認識していなかったとしたら、皆さんはやがて自分の正体を失うことになり、あのだ水滴は自分自身を水として認識しました。そして大いなる源と一つになりました。そうすることこそ永遠の生命を得ることなのです。他のどんな場所にとどまったとしても、あの水滴はただ蒸発するしかありませんでした。そうしていたとしたら、それはとても短い体験しか得られませんでした。

リンゴのたとえ

これは、万物に関しても言えることです。万物が同じようにして進化しているのです。リンゴを例にあげてみましょう。リンゴの木は成長するリンゴ

の父親であり、母親でもあります。まず、その木には美しい花が咲き乱れます。そこで皆さんは言うかもしれません。「なんてきれいなんだろう。一年中咲いていてほしい」

でもそれらはまもなくやおうなしに地面に落ちて肥料になります。そしてそのあとには小さな子房が残ります。それがやがて成長してリンゴになるわけです。

その子房は母親から様々な養分をもらいながら、母親に完全に頼り切って生きつづけます。やがて、それはリンゴへと成長します。すると、その世話をしつづけてきた母親は、もはや世話をすることに疲れ、体をゆすつて成長したリンゴを振り落とします。そしてリンゴは地面に落下します。

それは花の体験をしました。つづいて小さな子房の体験もしました。そして成長して色づき成熟したリンゴになると、それには次の体験が待っています。母親が体をゆすつて、それは地面に落下しました。

そのときそれは最初の痛みを体験しました。地面にぶつかったからです。それはぶつかった部分に傷を負いました。そのままそこに横たわりつづけたならば、それは間もなく腐ってしまいます。そうなたったとしたら、それが得られる体験はそこまでです。

でも、もしそこに私が通りかかって、

それを食べたしたら話は違つてきます。私は確かに食べることでそのリングを破壊します。するとそれは、もうリングではなくなりません。でも、そのリングの本質、そのリングをおおもとで作りにあげているものは、私が注意深く耳を傾けたなら、こう言うでしょう。「私を食べてくれてありがとう、アダムスキー。これで私はあなたと一語に生きつづけることができます。あなたは私を、あなたの体の中に取り込んでくれました」

結局、そこで腐敗の体験を終えることになったかも知れないリングが、私に食べられたために、私と一語に以後も様々な体験をすることになったわけです。リングは私に栄養素を提供することで私を助けてくれました。そして私もリングを助けたのです。なぜなら、もし私がこれから四〇年生きるとしたら、そのリングの本質も、私と一緒にさらに四〇年間に渡つて様々なことを体験できるからです。

このように、万物が助け合つて生きているのです。これが自然の法則です。問 この「循環」に関連して多くの人が興味を抱いているのは、人間としての正体だと思ふのです。もし私たちが（転生して）次々と新しい生涯を生きたら、その際に私たちの個人的な正体はどれほど残るのでしょうか？

ア 人間の個人的正体は心と関連し

たものです。もし心がほんの少しでも（自分の正体を）考えたならば、それだけで心は十分に正体を維持できます。でも、もし心が、たとえば千年あるいは一万年にも渡る多くの生涯を通じて進歩するための努力を全くしなかつたならば、それは消滅せざるを得なくなるでしょう。ただし、だからといって実質的に消滅するのは心一つありません。消滅するのは心の正体のみです。本質は永遠に持続します。

万物がその本質で生きています。それを我々は、「万象の因」「意識」「生命」「知性」あるいは、もっと一般的なには「神」とも呼んでいます。

母なる大地の意味

物質的な大自然は母性原理だと言うことができます。それを通じて、英知または父性原理が表現されています。我々はよく「母なる大地」と言いますが、それは実に正しい呼び方です。ほとんどの人々は自分の子どもを乳離れさせます。でも母なる大地は我々を決して乳離れさせません。もし大地が我々を乳離れさせたら、我々は餓死してしまいます。大地は私たちのための食べ物を常に作りつづけてくれます。

「母なる大地」は、まさしく神が自身を表現するための媒体なのです。ですから皆さんは自然を研究すればす

るほど、その大地を、そして人間を創造した（父）について、より良く知ることができるとのことです。

それはちょうど——ああ、ルーサー・パーバンクをご存じでしょうね。パーバンクは、果物や野菜を実に見事に育てました。あるとき彼は神を信じることと聞かれて、「私は神とともに仕事をしています。私は神と毎日顔を合わせつづけている」と答えました。するとキリスト教徒たちは彼を不心得者と言つて罵りました。彼は失意の中で亡くなりました。ひどい話です。愚かなクリスチャンたちは彼を不信心者などと呼んだのです。彼らよりも神のことをはるかによく知っていたパーバンクをです。彼は神とともに仕事をしていたのです。

（訳注）ルーサー・パーバンクは一八〇〇年代後半から一九〇〇年代初期にかけてアメリカで活躍した偉大な植物品種改良家。植物とテレパシーで会話をかわしていたといわれる）

たとえば、私がある有名な画家の絵を買ったとしましょう。私はその画家の名声を聞き、彼の絵を買いに行きました。そしてそれを家に持ち帰り、おそれが、私とその画家と会うことは、おそらく永遠にないでしょう。でも家に持ち帰ったその絵を研究すればするほど、私はその絵を描き上げた人の心により良く知ることが出来ます。同じように、我々は自然を研究すればするほ

ど、我々のすべてを創造した創造主について、より良く知ることが出来ます。たとえば、この世界に一つの宗教しかなかったとしましょう。そしてその宗教が一人の男によつて率いられていまして、彼はありとあらゆる権力を手にしています。誰もが彼を恐れています。なぜならば、彼に刃向かえばたとえそれが正しい行為であろうと誤つた行為であろうと、ひどく罰せられることになるからです。そのために誰もが彼の意向に沿つたことだけを行ないつづけています。

しかしあるとき私は意を決して、ある事で彼に刃向かいました。私が罰せられることは必至です。ただ、彼らも私を直接に殺そうとはしませんでした。その程度の進歩はしていただけです。

しかし彼らはそのかわりに私を餓死させようとした。彼らが行なつたことは私の額にある印をつけることでした。その印の意味は世界中の誰もが知っています。その結果こんなことが起こりました。たとえば、私があるあなたの家を訪ねて、一〇ドル紙幣を差し出して「水を一杯だけ分けてくれませんか。喉が乾いて死にそうなんです。ここに一〇ドルあります。これを全部払いますから、どうか分けてください」と言つても、私の額の印に気づいたあなたは水を一滴も分けてはくれません。例の宗教指導者に忠誠を誓つているからです。（以下次号）

久保田先生との質疑応答会

★隔年に開催する異色の日本GAP黎明会主催特別セミナー

日本GAP内部の強力な支持活動グループ「黎明会」は久保田先生をご招待して質疑応答会を過去3回開催しましたが、多数の方のご要望にこたえて、またも下記の要領で第4回を開催致します。めずらしい秘話などが先生から直接に聞ける絶好の機会です。関東地方の会員の方はふるってご参加下さい。終了後は別な場所で忘年会を開催致します。宿泊希望の方にはホテルのお世話も致します。多数の方々のご参加をお待ち致しております。

黎明会代表 西川 太

①質疑応答会

- 日 時 平成9年12月21日(日) 午後1:00~4:00
- 会 場 「大宮ソニックシティ」6階会議室604号
埼玉県大宮市桜木町1-7-5 TEL048-647-4159
- 交 通 J/R京浜東北線にて大宮駅下車。西口改札より遊歩道を渡り徒歩5分。
- 会 費 ¥3000 当日受付で納入

プログラム

- 1:00 開 会 司会 会田裕子/挨拶 西川 太
- 1:05 久保田先生との質疑応答
- 3:00 休 憩
- 3:15 大宇宙思念法の解説と実践指導
- 3:45 全員記念撮影
- 4:00 閉 会

②忘年会

- 質疑応答会終了後 5:00~7:00
- 会 場 イタリア料理店「ヴィノ」 大宮市桜木町2-7-8
- 会 費 ¥5000
- 二次会 大宮駅前「天狗」を予定。(会費未定)

③予約申込み

- ハガキに「質疑応答会出席」「忘年会出席」の両方またはいずれかを記入し、12月1日までに下記へ必着でお送り下さい。
- 申込先 〒350-02 埼玉県坂戸市千代田1-7-25
会田裕子 TEL0492-81-4267
- 質 問 何でもご自由に質問して下さい

④宿 泊

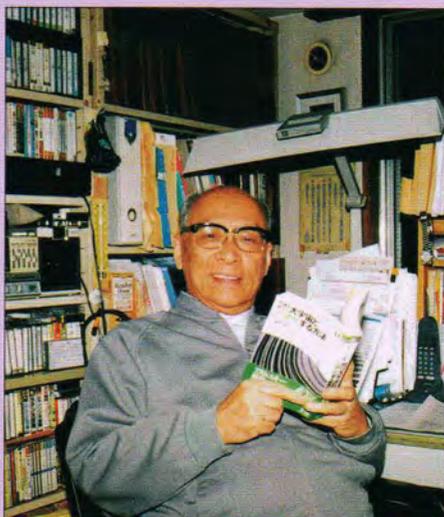
- 次のホテルを予定しております。
「パレスホテル大宮」大宮駅西口ソニックシティ内
TEL048-647-3300 シングル¥9000
- ホテル申込先 宿泊ご希望の方は上記の会田宛ハガキに併記して下さい。

⑤全員記念写真

カラーグラウンドキャビネ判、送料共¥1000。
希望者は当日受付でご納入下さい。



▲大宮ソニックシティ(高層ビル)と
パレスホテル大宮(手前のビル)



●久保田先生のプロフィール (撮影と解説 加藤純一)
1924年生。慶応大文卒。20歳代末にアダムスキーの本に出会って大ショックを受け世界観が大転換。以後アダムスキーから文通による指導を受けながら1961年9月に師のすすめにより日本GAPを設立。以来36年間GAP活動を展開。UFOと宇宙哲学の啓蒙活動に専念。UFO研究の大先駆者。世界の研究界にも知られ、デンマークのコリン市と米ワシントン市でUFO問題に関する講演(英語)を行なう。新アダムスキー全集11巻の翻訳、UFO関連の著書等がある(いずれも中央アート出版社刊)。



UFO contacteeバックナンバー主要記事

★従来102、103、104号は品切れでしたが、某所より新品在庫品が各10部ずつ出てきましたので、101号より最近号までそろっています。バックナンバーのみ1冊¥700。送料不要。代金後払い可。ハガキに号数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から123号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さい。

No.138 1997年(平成9年)7月25日発行 ¥700

火星人に出会った男——久保田八郎
 コニストン円盤事件の現地を訪ねて——高橋 徹
 異星人女性との不思議な出会い——ミッシェル・ジルジェ
 UFOの磁気モーターの謎を解明——遠藤昭則
 宇宙の使者——加藤純一
 宇宙哲学で良き運命をつくる方法——久保田八郎
 宇宙の法則のもとに生きるスペースラサース(I)——ジョージ・アダムスキー

No.137 1997年(平成9年)4月25日発行 ¥700

UFO頻出のデザートセンター——久保田八郎
 私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た——中里信彦
 空中に不思議なサインが出現——加藤純一
 宇宙の真実を語るアダムスキー——肥後哲也
 ケネディー大統領はドイツに転生?——久保田八郎
 大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男
 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<2>——久保田八郎
 大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男
 反復思念とイメージ法で奇跡を起こす!——会田晋一郎
 誤った宇宙論とアダムスキーの正当性——小山羊一
 江戸川区のUFO——大根田匡史・岡田茂
 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1>——久保田八郎
 イエス出生の謎を探る——遠藤昭則
 アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快——西坂安信
 オレンジ色の光体を目撃——堀下一郎
 東京上空の細長い物体——藤原敏子
 素晴らしい宇宙哲学講義——佐藤 彰
 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(3)——G・アダムスキー

No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異の真相——久保田八郎
 真実であったアダムスキーの体験——G・クレイトン
 秋田で巨大円盤を目撃!——加藤純一
 東京タワー上空の巨大母船——遠藤昭則
 ロズウェル事件の真相はこれだ
 コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問——遠藤昭則
 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法——G・アダムスキー

No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった——久保田八郎
 私の宇宙哲学実践とUFO目撃——加藤純一
 懐疑論者から支持者に転向——J・ローリーノ
 アダムスキー哲学と波動感知法——林 国宜
 創造のための宇宙哲学——佐藤 彰
 宇宙の夢とUFO目撃——吉川美香
 カルナの意味——林寺正俊
 東京大地震は近未来に発生しない——秋山真人
 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法——G・アダムスキー

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性——秋山真人
 イエスの時代を透視する——遠藤昭則
 奇跡を起こすイメージ療法——原 永倉
 宇宙船の形態に関する一考察——遠藤昭則
 アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学——アリス・ボマロイ
 好評、名古屋市の講演
 東京造形大学で講演

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
 ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現!——加藤純一
 私もワシントン市でUFOを見た!——清水 正
 カイバベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一
 アダムスキー大会を思う——岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
 熱烈な呼びかけに答えたUFO——石井一江
 私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭
 宇宙時代の夜明け——村上博一
 人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 ¥700

M氏の「UFOと異星人」体験——久保田八郎
 アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則
 超能力者ディナの驚異のパワー——久保田八郎
 異星人女性との出会い——佐々木八郎
 スペースビーブルを見かける私——原垣内良子
 透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造
 白山のUFO——沼倉孝彦
 父と従兄が「UFO」目撃——高橋克彦
 人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 ¥700

地獄の大地震からの奇跡の脱出——平塚和義
 大地震を前夜予感した私——西村悠子
 偉大な教訓となった大地震——田辺健司
 ロズで見かけた異星人女性——加藤純一
 アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志
 巨大母船、安比高原に出現!——秋山和広
 サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宜
 UFOの速度・肉体と魂・
 真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 ¥700

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
 わが母の驚異のUFO目撃——ミッシェル・ジルガー
 総会の日にUFO出現
 那須高原で巨大母船出現!——堀江健一
 ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
 あなたもオーラが見える——遠藤昭則
 予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 ¥700

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
 ロズウェル事件とMJ12文書——坂本真一
 UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
 私もアダムスキー型円盤を見た!——田口邦雄
 UFOとオーラと想念——山崎和子
 奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
 異星人とUFOの真相(2)——G・アダムスキー

運命を変える光の波動を放出!

意識生命体から地球人に送られた
高次元メッセージ…。さらなる進化、
それがアプスセカンド。

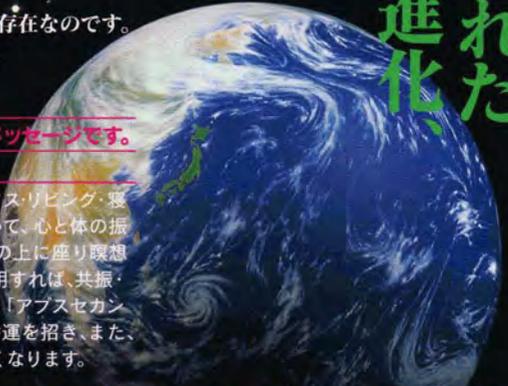


高次元エネルギープレート&ペンダント 「アプスセカンド」

「地球人よ、何故あなた方が地球に生まれてきたのかを知りなさい。瞑想しなさい…。自分が誰なのかを知るために…。内なる自己に早く目覚めなさい。あなた方の真の姿は光の存在なのです。もっと光りなさい。そうすれば、きっとあなた方の未来は大きく変わってでしょう——愛する地球人へ…」

アプスセカンドは、地球に愛と調和と平和の願いを込めたメッセージです。あなたの人生にお役にてください。

宇宙に存在する高次元エネルギー…「アプスセカンド」は、オフィスリビング、寝室等あらゆる生活空間の波動エネルギーを上昇させることによって、心と体の振動数をシフトさせます。プレートは壁掛けとして利用するほか、この上に座り瞑想して頂ければ、潜在意識が高まるでしょう。また、ペンダントを併用すれば、共振・共鳴効果でさらに強いエネルギーが得られます。携帯用プレート「アプスセカンドミニ(5cm)」は、バックやサイフ、ポケットなどに入れておけば幸運を招き、また、枕の下に入れて寝れば、宇宙の夢や不思議な夢を見ることが多くなります。



アプスセカンド・プレート

© サイズ直径30cm

アプスセカンド・ペンダント

- 男性用チェーン 55cm
- 女性用チェーン 45cm

シルバー ゴールド
〈仕様〉サイズ直径2.6cm
ロジウム/24K仕上げ

今ご購入の方全員にもれなく携帯用プレート「アプスセカンドミニ」をプレゼント!

〈商品写真の上に、タバコや飲物を15分位のせてエネルギーの確認をしてくだされば、本物の商品の強さは理解出来るはずです。〉

◎アプスセカンド

●定価 各**18,000円**(税別)

※類似品にご注意ください。

アプスセカンドで潜在意識を高めながら、あなたの波動エネルギーが上昇し、あなたから発せられる光エネルギーが高次元レベルになると、対人関係、仕事、勉強、金銭面など生活全般に変化が起こり、幸運や金運にも恵まれて、これからの人生観も次第に変わって行きます。

「アプスセカンド」をご希望の方は、電話かハガキ、または、FAXで。

〒150
50円
株式会社エンジェル
日本GAP係

- 商品名 アプスセカンドプレートまたはペンダントゴールドかシルバー
- 〒住所(フリガナ)
- 氏名(フリガナ)
- 電話番号
- 職業
- 生年月日

▼お電話でのお申込みは(受付AM9:00~PM10:00)

0120 FreeDial **0120-783-718**

※受付時間外はハガキまたはFAXでお申ください。

FAX03-3464-8616 (24H受付)

- 商品をお求めの方は、商品名、数量を明記の上、電話かハガキまたはFAXでお申込みください。(翌日発送、送料無料)
- 万一商品がお気に召さない場合は8日以内にご返品ください。(但し、未使用品に限る)この場合送料はご負担ください。

●お支払いは代引、または現金書留(商品代金+消費税)で、ご入金確認後の発送となります。

〒150 東京都渋谷区宇田川町36-2
ノア渋谷パートI 905

株式会社 **エンジェル**
日本GAP係

Letters

ユーモアの広場



人生は芝居の演技

神奈川県 高田幸子

残暑のみぎり、お見舞い申し上げます。先生におかれましては、ますます御活躍のこととお慶び申し上げます。

「意識の声」第八三号の「役者観法」は全く同感です。私も勤めに出るときには玄関にかけてあるお面をかぶって出ます。

出かけると同時にその日一日の幕が上がり一日中パフォーマンス（演技）です。好き嫌いを絶対表わさず、誰に対しても尊敬の念で応対し、人がどう思うなんて全く気にせず、帰りの電車で今日のパフォーマンスを、私の意識が反省します。

でも面白いことに、パフォーマンスを続けていますと、一体自分は何だろう、たいした奴でも何でもない奴、本当の自分で何だろうと思えます。今日は人様のためにどれだけできたかと思うのも常です。泥沼に陥いても咲き、良い香りはなつ蓮の花。それは菩薩と言われているゆえんですが、スペースビートルは正にこの菩薩と同じですね。

それ故、私は職場でも家庭でも他の汚れに染まらなく、毅然と咲く白い蓮の花のように、いつ迄も咲いていようと思っています。お身体お大切に。

（編注）役者観法とは編者が維持会員の方々に毎月お送りしているエッセ

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

セイ「意識の声」の八三号（本年六月号）に掲載した第四章の「人生を楽しく豊かに過ごす方法」と題する部分で述べた生き方。これは編者の生き方でもある。

生きているのは驚異的

三重県 松口幸之助

黄金色に実っていた稲が今は刈り取られ、田んぼの土肌が見えてきました。

先月は久保田先生のエッセイ「意識の声」九月号をお送り下され、誠に有難うございます。ご多忙の折厚く御礼を申し上げます。愛と慈悲深い内容で感銘を受けた次第です。

私は思うのですが、事を成して有名になったり、人生において成功することも良いのですが、たとえ仮に何もしくなくても、自分という人間がただ生きていること、この宇宙の中で生きていること自体が、すごく驚異的なことだと感じます。

もうすぐ「日本GAP総会」でございますが、私はいよいよ社会生活に慣れてきましたが、総会への出席は次の機会にさせて頂きたいと思っております。お許しのほどを。どうぞご了承下さい。

今年度の「日本GAP総会」のご盛会とご成功をお祈り申し上げます。

素晴らしかった福山支部大会の講演記事

福井県 津田朝美

久保田先生、お元気でいらっしゃいますか。夏草の中から時折キリギリスの音が聞こえるこの頃です。先日「UFO contactee」誌二三八号の御送付を頂きまして有難うございました。いつもながらのすばらしい内容に心から感銘して拝読いたしました。

セドリック・アリンガム氏の「火星人に会った男」の記事はとても懐かしく、二三年前に読んだ事を思い出して、本欄より捜して、もう一度読み返してみました。

最近火星探査機マーズパスファインダーが話題になっておりました。三六〇度の火星の映像をTVで見えておりました。地球の何処かの荒れ地が写し出されているみたいだと思ってしまうほど、やはり星は何処でも同じなんだなあと、つくづく思いました。

それと先生が福山支部大会で講演された「宇宙哲学で良い運命をつくる方法」という記事もすばらしい内容でした。一冊の書物で運命が変わることには、まさにカルマ的な要因があると思います。それと良い運命を開くための三原則には特に感銘を受けました。

第一に「大宇宙の創造主を自覚して、自分が創造主の化身であること」を認識する」とあります。

私達は宇宙の意識によって結果の世界で存在しているのですし、人間としていろいろな事を学ぶ特権が与えられているのですから、その

事はとても感謝しなくてはいけないと思いました。

第二に「万人を尊敬すること」

これはイエスの愛の法則そのものだと思います。隣人を愛することは今の社会ではとても難しいことだと思います。しかしこんな時代だからこそ、一人でも良い想念を放射するようにしなければいけないと、今さらながら切実に思いました。

それには第三の原則の「いつも楽しいというフィーリングを持つ」ということがポイントになると思えました。子供の頃はよく笑いましたし、どんな小さな事でもワクワクドキドキして楽しんでたことを思い出します。楽しいフィーリングによって体の中の細胞もキラキラして軽くなるような感じがしてきます。そうすると年を取ることも忘れて、いつまでも先生のように若々しく元気でいられると思えます。

大阪支部の会員の方が写された福山支部大会のビデオで先生のお姿を拝見しました。とてもブルーのスーツが色鮮やかで先生が輝いて見えました。スーツの色だけではなく、先生から発せられる良き高い波動のためだと思えました。その時のユーコン誌の写真にもブルーのスーツ姿が写されておりますが、とてもブルーがお似合いです。ありがとうございました。これからもますますお元気で御活躍されましますようにお祈りいたします。

楽しかった総会

石川県 大島春子

今年も総会に出席することが出来まして、楽しい有意義な二日間を過

ごせましたことを感謝申し上げます。こちらに六人家族で在住する身には年一回の総会出席は、結構大事で嬉しいことでございます。先生には再々にはお目にかかれませんが、いつも先生の御健康その他を祈っております。私はGAP会員の皆様によってかもし出される雰囲気が大好きなのです。

これから冷えて参ります。お体をくぐれども大切になさって下さいませ。イストラエル旅行を楽しみにしております。

総会の大成功を祝福

埼玉県 会田裕子

このたびは日本GAP総会の大成功、誠におめでとうございます。また、このような大舞台で副司会者という光栄なる機会を与えて下さいました事に深く感謝致します。

今回、初めて舞台の袖で先生の御講演を拝聴しましたが、いつも増して先生の語られる真の宇宙哲学は、じんわりと温かく私の胸に浸透していくのを感じました。特に先生がいつもおっしゃる「万人を尊敬せよ」というくだりで、先生御自身も大変苦勞なさっているとお聞きした時、なんと謙虚な方なのだろうかと涙がこみ上げてまいりました。

この様な素晴らしい総会に本部役員として全国の皆様をお迎え出来ました事に、心から喜びを感じずにはいられません。数年前、枕元に積み上げたUFOコンタクトクワイ誌を眺めながら、「ああ、私も久保田先生のお側でGAP活動のお手伝いをしたい！」と熱望していた頃をふと思い出します。



●ヒーリング写真「自信」

撮影/金丸直司

またも金丸氏の素晴らしい作品が届いた。これを見つめると、もりもりと自信がわいてくるという。バックのブルーは「宇宙の意識」をイメージしたものだ。何かで落ち込んでいるときには効果きめんという。ぜひ試してみよう!

願望は見事に現実となりました。私は本当に幸せです。その事を忘れて、これからもより一層精進してまいりますので、よろしく御指導をお願いいたします。久保田先生のますますの御活躍を祈念致します。

未来の予言のてらめ

埼玉県 清水畑 博

最近世の中が物騒になり、誘拐や殺人の件数も多くなってきました。これも一つのカルマの清算と割り切ればよいのですが、被害者のご家族の心労は大変なものだと思います。

そこで、このような難解な事件の解決に超能力を有効活用できないものでしょうか。日本には自称「一流の超能力者」がたくさんおられます。警察の犯罪捜査に協力する人はいないのでしょうか。

ノストラダムスの言う一九九九年七月に何が起こるかわかりませんが、少なくともこれまでの大予言ははずれています。もし予言のとおりなら一九八六年に小惑星が衝突して地球は消滅していますし、今年には中東の海戦がきっかけで、世界中が第三次大戦を戦っていますし、同時に日本のほとんどとアメリカの西部が海中

に没しているはずで。しかしそんな事は全く発生しませんでした。どうも一部の売人が人々の不安をおおって本や番組を売り込もうとしているだけのような気がします。予言のメカニズムはわからないにしても、発表した予言の当たった割合から予言者の信頼性がわかります。本当に信頼できる予言者はいるんですかね?

火星探査結果に疑問

千葉県 植木淳一

今回はユーコン誌一三八号を刊行され、おめでとうございます。いつも素晴らしい雰囲気を持つ雑誌なので感激しながら読んでいます。遠藤さんの記事はとも期待できますが、実際にそうした機器(反重力飛行体)が世の中に出てくる日が来世紀には訪れるかと思うとワクワクしてきます。今回はインターネットで公表されている「MPF(マーズバスファイナダー)の火星着陸」の際のパラシュートに関する資料を送付させて頂きます。

今回の着陸船もバイキングと同じく、火星へ降下時にパラシュートを使用していたのは有名な話です。しかし直径一二・五メートルくらいのもので、地球の千分の一(?)以下の大気圧のもとで、はたして制動降下が期待できたのかどうか疑問がありました。今回はそうした資料が公開されているところに面白味があります。降下時のMPFの垂直方向の加速度変化もグラフで与えられています。また、これとは別個に逆噴射ロケットの資料もあります、それは二秒程度のものでどの程度効果のあるものかはわかります。これは、船

体で二〇メートル上空で一時的に静止させた後に切り離されます。MPF本体はエアバッグと共に地上に落下しますが、こちらも着陸時の減速曲線グラフから見とれます。

さらに別な資料として船体モデルの組み立てキットがあります。これは縮尺が一七分の一になっていますので、各部の長さを一七倍にすると実際の大きさとなります。これは厚紙に貼りつけて切り取り、糊で貼り合わせるとMPFの模型が作成できます。学校で学生達に宇宙開発への関心を持たせるには絶好の教材となるのではないのでしょうか。

効果時にはパラシュートだけではなく船体部分の空気抵抗もありますので、これがあれば詳しい分析ができるかもしれません。計算はこれからしてみてもいいです。

火星でのパラシュート制動効果に関しては、英文の質疑応答に学者の答えがあります。それによると、パラシュートの質量にも関係があり、あまり大きくて重いものは乗せられないということ。また費用と効果を比較した場合、十分なものがある、というのが答えですが、実際の計算結果などはないので、果たしてそれで本当に答えになっているのでしょうか(以下略)。

大阪支部代表、テレビ出演

兵庫県 平塚和義

総会では大変お世話になりました。役員の皆様には本当によく働かれて温かく迎えて下さって嬉しく思いました。これもひとえに久保田先生のおかげで、これからも大いに頑張っ



◀大夕食会後の二次会(新橋の天狗)

てゆきます。テレビ番組出演の件ですが、九月一日に自宅で収録を終えました。番組の内容は若い人向きの情報番組のようです。サブタイトルが「宇宙人を捜せ」と題するもので、私が声の出演をしました。まずリポーターが「地球上には人間の姿をした宇宙人が本当にいますか」と質問し、その他、日本GAPの活動内容等も聞かれました。テレビ局はテレビ大阪一九〇H、放送エリアは関西一円、放映日は九月二八日午前一時五分から一五分まで。番組名は「キーマン計画」です。まずはご報告まで。



ジョージ・アダムスキー 著
久保田八郎 訳

George Adamski

全面改訂・改訳
全10巻／各四六判

新アダムスキー全集



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

2 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四官をコントロールして肉体内の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

3 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

4 UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、迷ったUFO研究界に解答と示唆を与える書

5 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

6 UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

7 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1000円十税）／四六判並製

●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

8 UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に世界する直前の最後の講演が圧巻！

9 UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

10 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

11 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2800円十税）／四六判並製

●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著 久保田八郎訳

定価（本体2718円十税）／四六判並製

●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した書。

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと
定価の10%引き+送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。


CHIAO ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017郵便振替：00180-5-66324

UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2500円+税)送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルーロドの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。



UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1650円+税)送料310円
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1650円+税)送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。

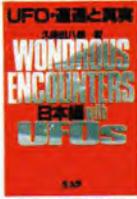


UFO・ 遭遇と 真実

—日本編—久保田八郎著

定価(本体1500円+税)送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



CHEJU ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017郵便振替：00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 12 日本GAP

B 5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190 (No. 1~3は品切れ)

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかわら、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体としたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の疑念答書も連載しています。No. 12には日本語版No. 137に掲載された「UFO発出のデザートセンター」の英文記事写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されれば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙をご送金下さい。



編集集後記★★★

● 近來、火星の探査結果がバツとしないためにUFO問題が軽視されてきたかの感があります。実際にはNASAが凄い発見をやっているのを隠蔽しているのだという説もあるのですが、どうでしょうか。UFO問題が重大極まりないものであることはUFO研究家間の常識です。その意味で去る九月一日の日本GAP総会における講演を掲載しました。裨益するところあれば幸いです。

● フライによるホワイトサンズのUFO搭乗は古い事件ですが、今読んでも素晴らしい価値を見出せる記事です。フライの書簡に暖かい人柄を感じた頃を思い出します。

● 本誌の各題名に英文のタイトルが付けてあるのは本誌を海外の研究者や団体等に送るからです。日本人は来世紀の中頃までに英語を第二の言語にしないと世界の大部分から落伍するといふ説もあります。その意味で本誌の英文版は万丈の気を吐いています。そちらの方もお読み下さい。高枚程度の英語力で読めるはずですよ。学習のためにどうぞ。

● UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を差し上げます。

● 本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 冬季号
UFO contactee 139号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-311

TEL 03-3651-0958

振替 00140-2-35912

一九九七年(〇月)二日発行

定価九四〇円(本体九〇〇円+送料240円)

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京 本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※本年11月は第2日曜日(9日)に臨時変更。 ※会場は本年12月より地下3階の第2研修室に永続変更。 ※来年1月のみ第2曜日の11日に臨時変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」6階67号室。 ☎03-3434-8211。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長の能力開発 講義「宇宙哲学」 3:25→5:00 超能力開発練習/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムス キー全集、GAPグッズ等を販売。
大阪 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会 長の講義のビデオまたは録音テープ を公開。テキストは上記と同じ。
新潟 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議 室。☎052-331-2141#0 JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市 役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問 い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川とさわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄 支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八幡運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩 3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城 支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせる こと。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松 支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時に変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出労働福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山 支部	毎月第2日曜日に変更 午後1:00→4:00 ※日時に変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977 福山駅から徒歩3分。 連絡先=兼田(なつめた) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190

テレフォンカード 頒布中止



近來携帯電話やPHS等の普及によりテレフォンカードの需要が激減しましたので、第8弾で頒布を中止します。来年1月発行予定の本誌140号より、本誌綴じ込み用の特製バンダーを頒布しますからご期待下さい。

—日本GAP—



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く豪華なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の金め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒113 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

☎03-3651-0958

申込先

日本GAP能力開発カセットテープ

●「宇宙哲学」能力開発テープ ¥1500
送料1本¥190 計¥1690

日本GAP東京本部開催の月例セミナーで久保田会長が97年4月から毎月行なう「宇宙哲学」解説講義と質疑応答を録音したテープ。みずから宇宙哲学の実践により青年のような体力と気力を保つ70歳代会長のたいなる信念と勇気を起こさせる話をぜひお聴き下さい。宇宙的な覚醒感により人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約10日間を要します。



申込先

日本GAP

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引きこむ宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000

(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

(内容) 毎年開催される日本GAP総会を学生気質、1989年度分から在庫あり。

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語) 全1巻 ¥3000

(内容) 1995年9月8日、久保田会長が英語で講演したためぐらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥300、2本以上3本まで¥700。



申込先

ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払い) 〒162 東京都新宿区富久町36-18 奮久マンション103

伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9525

何とオーダーメイド!

秋山真人先生推奨



あなただけの波動器を作ります!!

■OVOマインドエンジンとは何か?

10年以上にわたる研究によりエソプ・トルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から「波動形態理論」を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少 鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤(核波動共鳴図形回路)を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少 鉱物とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これが OVOマインドエンジンです。

■OVOマインドエンジン・直径37ミリ グラスプレート(9,800円送料・消費税込)

ミニピラミッドの連続体を刻んだグラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。(グラスプレートについては稀少 鉱石はつきません。)



■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ ヒーリング・コンディショナー(53,500円送料・消費税込)

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良い波動を完全にブロックする(悪質波動と共鳴する回路の遮断)のために作成されました。イギリスにある100年以上も前に建てられたゴーストハウス(幽霊が出る家)に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。



■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共 ルミナ波動レンズ(19,800円送料・消費税込)

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークォーツ、レインボークォーツ、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少 鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。



■OVOマインドエンジン フルパワーキット(127,000円送料・消費税込)

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス(エジプト)の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少 鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと、願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせることで、マル秘の活用法があります。



OVOマインドエンジンにできること!

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押していただいた後、ハガキに手、または足の指紋(どの指でも可)を朱肉かスタンプインキ(色は問いません)で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3~4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替で送金ください。

●郵便局:口座名義 オフィス江戸幕府
記号10120 番号36766381

●銀行:口座名義 オフィス江戸幕府
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F
株式会社オフィス江戸幕府
UFOコンタクティー OVOマインドエンジン係

●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンスリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク(いやしを与えるアンティーク製品)の博物館(日本初)があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。(要電話予約制)

株式会社オフィス江戸幕府

〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F

TEL 03-3957-4999

FAX 03-3957-4940 24時間受付



●超稀少水晶、針入赤水晶・30ミリ
ダビテプレート&30ミリ球おわけ
します。
限定500セット、特別頒布。